

## 第2次燕市総合計画実績評価書(令和3年度末時点)



令和4年2月

# 目 次

頁

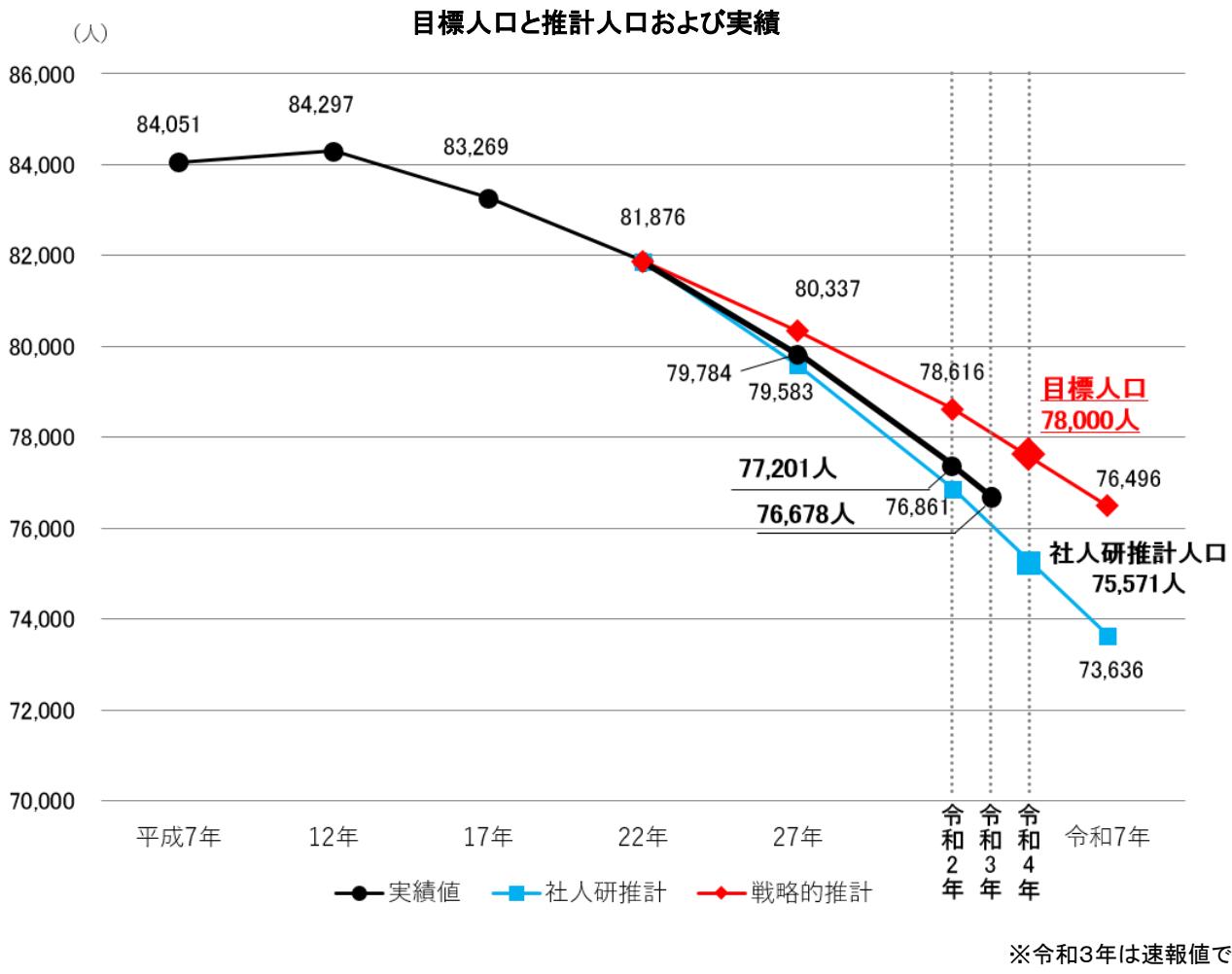
<b>1. 基本目標(重要指標)の実績評価</b>	4
(1)目標人口	4
(2)自然動態	5
(3)社会動態	6
(4)交流人口	7
(5)住みやすさ	8
(6)居住意向	9
<b>2. 戦略別計画の実績評価</b>	10
戦略1 定住人口増戦略	12
基本方針1 雇用・就労を支える産業の振興	12
施策1 ものづくり産業の活性化	12
施策2 新たな産業育成・創業の支援	13
施策3 変化に対応する農業の振興	14
基本方針2 地域に根ざした教育の推進・子育て支援	15
施策1 知・徳・体を育成する教育の推進	15
施策2 安心して生み育てられる子育て支援	16
基本方針3 健やかな暮らしを支える医療福祉の充実	18
施策1 医療サービスの機能強化	18
施策2 地域で支える高齢者福祉	19
施策3 障がいのある人への切れ目のない支援	20
基本方針4 移住・定住の促進	21
施策1 移住・定住希望者へのサポート強化	21
戦略2 活動人口増戦略	22
基本方針1 市民が主役の健康づくり・生きがいづくり	22
施策1 元気を磨く健康づくり	22
施策2 健全な心と体を支えるスポーツの推進	24
施策3 心豊かな生涯学習・文化活動の充実	25
基本方針2 支え合い・助け合い活動の活発化	26
施策1 支え合いの地域福祉	26
施策2 市民協働のまちづくり	27

基本方針3 若者・女性の力を活かしたまちづくり	28
施策1 若者の活動の活性化	28
施策2 女性が活躍しやすい環境づくり	29
<b>戦略3 交流・応援(燕)人口増戦略</b>	<b>30</b>
基本方針1 観光の振興	30
施策1 着地型観光の振興	30
基本方針2 都市間交流の推進	31
施策1 都市交流・広域連携の推進	31
基本方針3 燕市のファンづくり	32
施策1 イメージアップ・ふるさと応援	32
<b>戦略4 人口増戦略を支える都市環境の整備</b>	<b>33</b>
基本方針1 安全・安心機能の向上	33
施策1 災害に強いまちづくり	33
施策2 防犯・消費者保護対策の推進	34
施策3 交通安全の推進	35
施策4 公共交通の整備	36
施策5 快適な環境の確保	37
基本方針2 快適な都市機能の向上	38
施策1 まちなか居住と空き家等対策の推進	38
施策2 親しみのある公園づくり	39
施策3 人にやさしい道路環境の整備	40
施策4 安全・安心・おいしい水道水の供給	41
施策5 適正な汚水処理の推進	42

本実績評価書(令和3年度時点)は、第2次燕市総合計画で定めた「基本目標(重要指標)」および「戦略別計画」について、計画期間内における実績を評価し、次期総合計画策定の基礎資料とするために作成しました。

## 1. 基本目標(重要指標)の実績評価

### (1) 目標人口

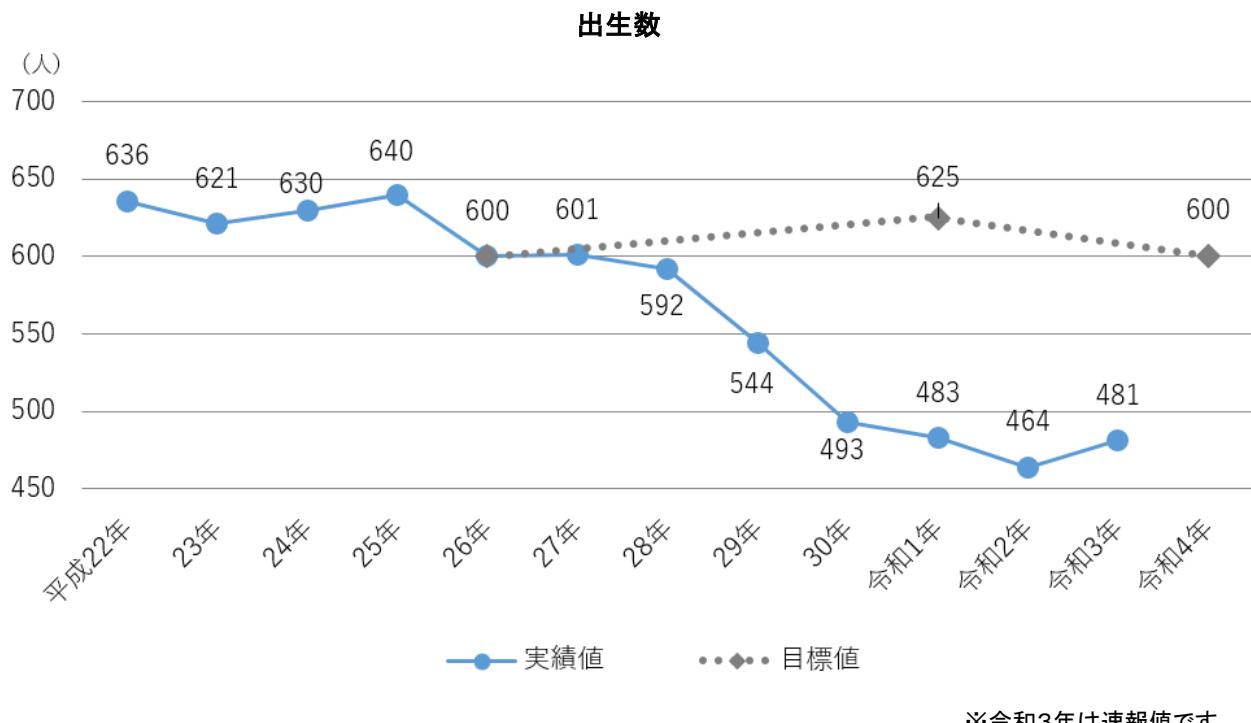


第2次燕市総合計画では、令和4年における目標人口を 78,000 人に設定し、各種施策を展開していますが、令和2年国勢調査の確報値は 77,201 人であり、目標人口を達成することは困難な状況です。

一方で、「第2次燕市総合計画中間評価報告書」(令和元年 11 月)では、「国立社会保障・人口問題研究所(社人研)の令和2年の推計を下回ることが予想される」としましたが、令和2年国勢調査の確報値が県公表の令和2年 10 月 1 日の人口推計値を 441 人上回ったことから、社人研の推計(76,861 人)を越える結果となりました。

また、令和3年 10 月 1 日の推計人口は 76,678 人となり、令和3年(令和2年10月～令和3年9月)の減少率の比較では、県内 20 市中、少ない方から2位(1位新潟市)、町村を含めた全市町村との比較では3位(1位湯沢町、2位新潟市、3位燕市)となりました

## (2) 自然動態

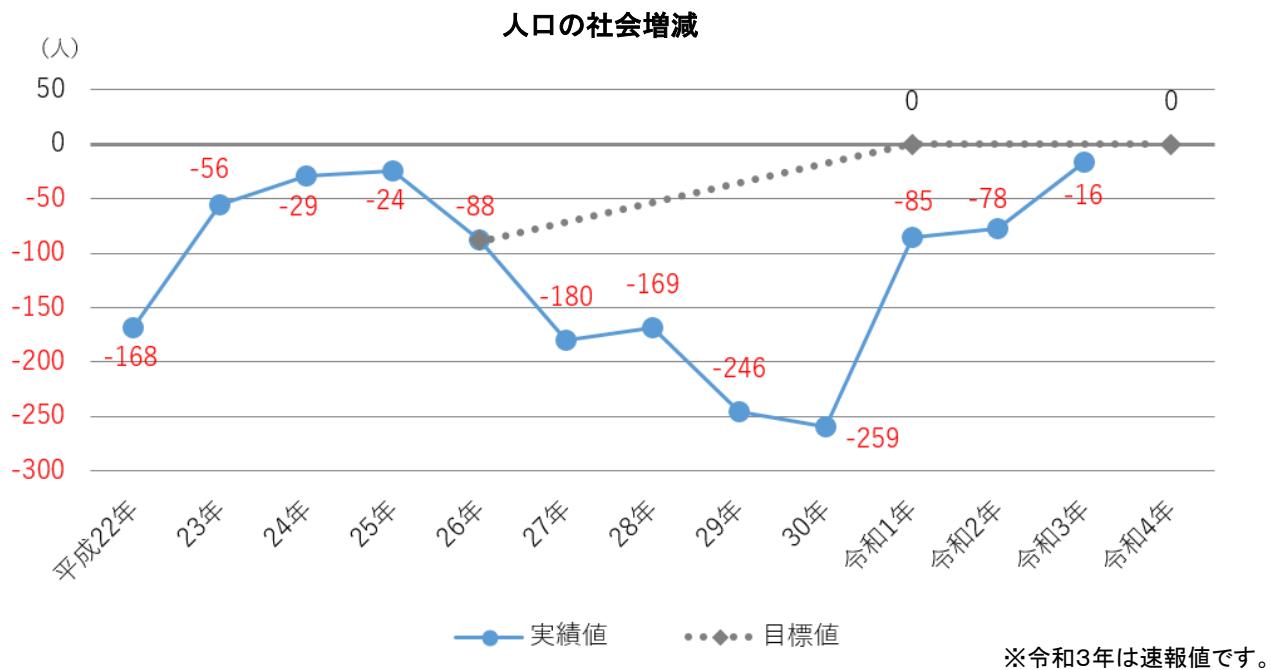


出生数は、令和元年までは平成 22～26 年の平均出生数と同数の 625 人、それ以降も平成 26 年の出生数と同数の 600 人を維持することを目指していますが、平成 28 年以降、減少傾向は続き、令和2年には 464 人まで減少し、目標を達成することは困難な状況です。減少の要因は、「第2次燕市総合計画中間評価報告書」(令和元年 11 月)に記載のとおり、若年人口の減少や晩婚化など、複数の要因によるものであると考えられます。

一方で、令和3年は481人となり、直近の妊娠届出数についても対前年で増加傾向にあるため、減少ペースの底打ちが期待されます。

また、令和3年(令和2年10月～令和3年9月)の人口あたりの出生数比較では、県内 20 市中、新潟市に次ぐ2位、町村を含めた全市町村との比較では3位(1位聖籠町、2位新潟市、3位燕市)となりました。

### (3)社会動態



令和元年までに転入転出を均衡水準に改善し、それ以降はその水準を維持することを目指していますが、令和元年の目標は達成できませんでした。しかし、この頃から回復傾向となり、令和3年は-16 人にまで転出超過が縮小しました。

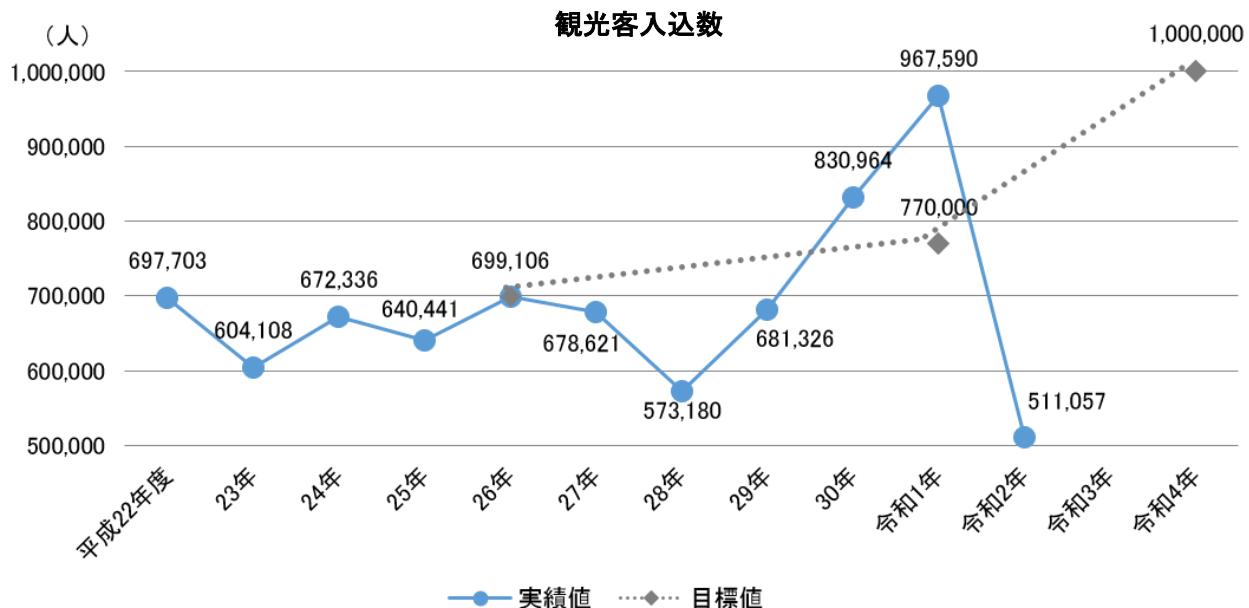
また、令和3年(令和2年10月～令和3年9月)の増減率の比較では、県内 20 市中 1 位、町村を含めた全市町村では、3位(1位出雲崎町、2位湯沢町、3位燕市)となりました。

この社会増減の好転は、平成 30 年と令和3年の転出入事由の分析により、以下の3つの要因が大きく影響していることが分かりました。

- ①東京都との転出超過の縮小(H30:-109 人→R3:-66 人)
- ②国外への転出の減少(H30:105 人→R3:68 人)
- ③新潟市との人口移動が転入超過に転換(H30:-126 人→R3: +13 人)

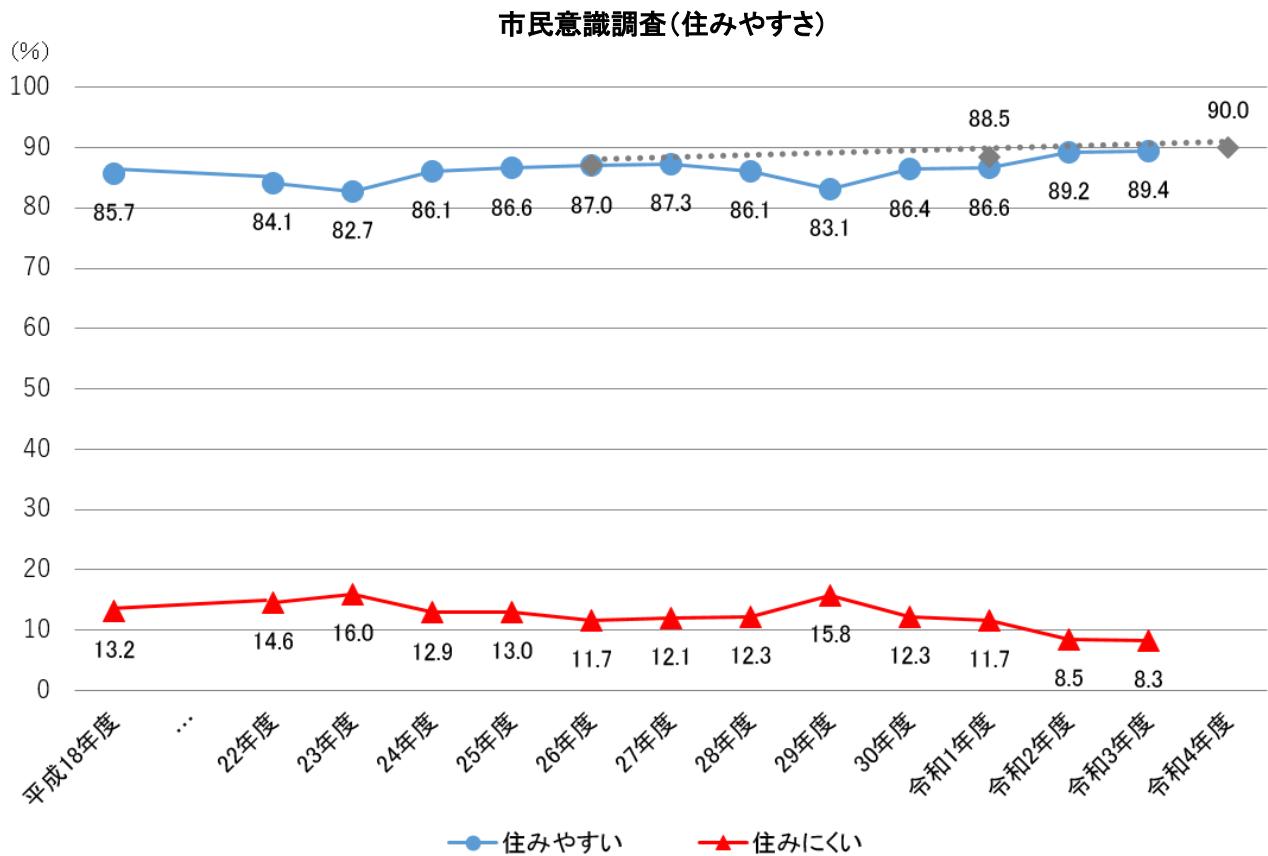
①②については、新型コロナウイルス感染症の影響が考えられます。③については、「住居」を事由とする転入の増加および転出の減少が転入超過に転じた主な要因であり、後述の「(5)住みやすさ」「(6)居住意向」の実績に関係しているものと考えられます。

#### (4) 交流人口



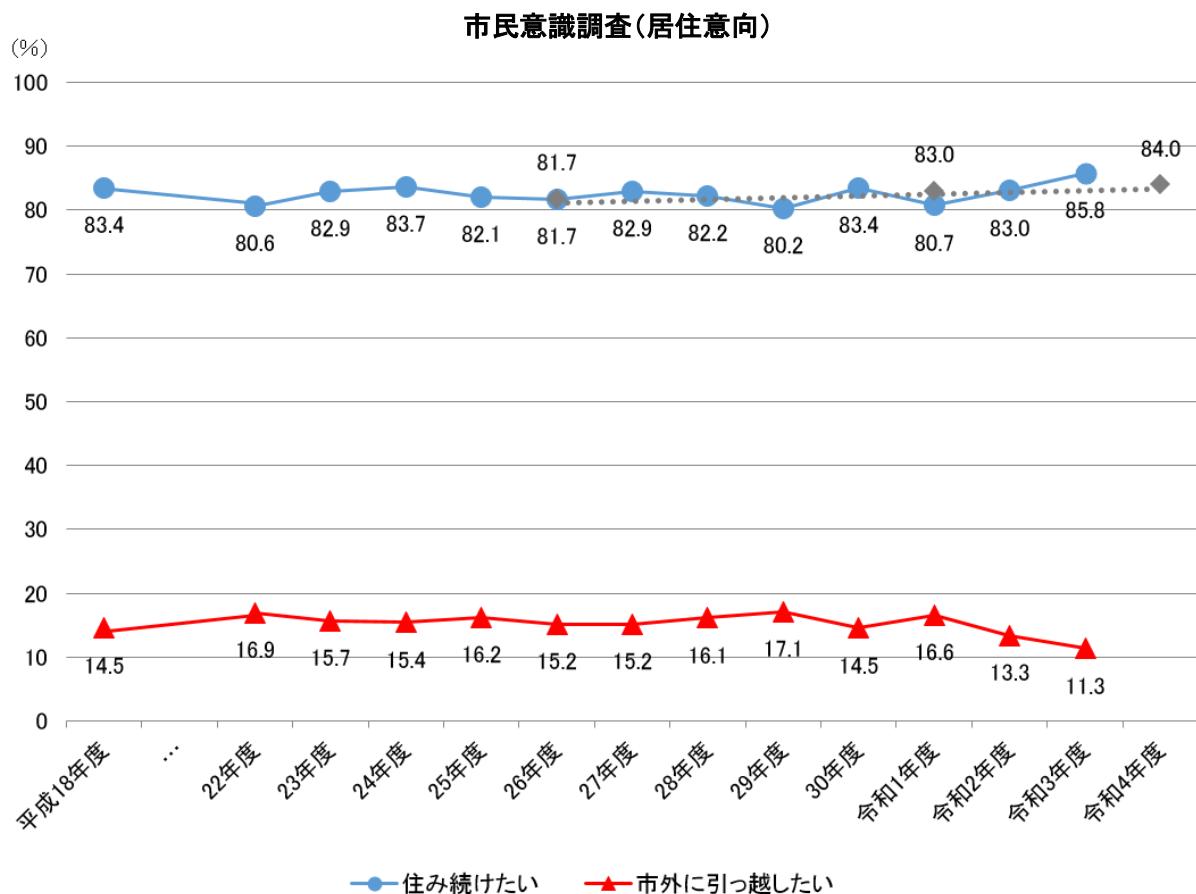
本市の観光客入込数は、平成 28 年までは 60 万～70 万人程度で推移していましたが、平成 29 年以降は増加し続け、令和元年に当初の最終目標値(90 万人)を達成しました。そのため、令和2年3月策定の「第2次燕市総合計画 中間評価に基づく施策等の見直し版」にて、令和4年の最終目標値を上方修正し、100 万人を目指して施策を開拓してきたところです。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響により、県をまたぐ移動が制限されたことなどから、令和2年は 511,057 人となり、平成 26 年の基準値を下回る結果となりました。

## (5)住みやすさ



市では、市民が日頃まちづくりや身近な生活環境などについてどのように考えているのかを把握するため、毎年、無作為抽出した市民を対象に「これからまちづくりのための市民意識調査」を実施しています。その中で、「あなたにとって燕市は住みやすいまちですか」という質問に対し、「住みやすい」と回答した割合を令和4年度に90%まで上昇させることを目指しています。平成30年度以降は上昇傾向となり、このまま上昇すれば最終目標値を達成する可能性があります。これまで実施してきた各施策が、「住みやすい」を選択した人の増加要因の1つであると考えられます。

## (6)居住意向



前項と同じく「これからまちづくりのための市民意識調査」にて、「あなたは今後も燕市に住み続けたいですか」という質問に対し、「住み続けたい」と回答した人の割合を令和4年度に84%まで上昇させることを目指していますが、令和3年度時点では最終目標値を上回る85.8%となりました。これまで実施してきた各施策が、「住み続けたい」を選択した人の増加要因の1つであると考えられます。

## 2. 戦略別計画の実績評価

第2次燕市総合計画では、3つの人口増戦略(定住人口増戦略、活動人口増戦略、交流・応援(燕)人口増戦略)と、それを支える都市環境の整備に取り組んでおり、これらの戦略のもと、12の基本方針と29の施策を展開して戦略の具体化を図っています。

戦略別計画の施策ごとに実績を評価しており、ページのレイアウトは以下の図の通りです。

### 戦略1 定住人口増戦略

#### 基本方針1 雇用・就労を支える産業の振興

##### 施策1 ものづくり産業の活性化

指標項目	基準値	R1実績値	R2実績値	R3実績値	R3実績値の達成目標値	最終目標値(RA)
製造品出荷額等 (H25)	384,460 百万円	431,620 百万円	443,923 百万円	426,134 百万円 (R1)	78.0%	437,500 百万円
金属製品製造品出荷額 (H25)	82,660 百万円 (H25)	83,550 百万円 (H25)	83,550 百万円 (H25)	85,217 百万円 (R1)	達成	82,400 百万円
従業員一人当たり製造業付加価値額 (H25)	8,120 千円 (H25)	8,420 千円 (H25)	8,550 千円 (H25)	8,233 千円 (R1)	3.0%	9,640 千円

【指標項目】

- 指標項目「製造品出荷額」は、全国的にコロナ禍による落ち込みが見込まれるもの。平成20年のリーマンショックによる大きな落ち込みは、本市と同様に製造業を基幹産業とする他都市と比較すると、順調に回復・増加傾向にあります。

【市民満足度】

- まちづくりに対する満足度と重要度(右図)の「雇用施策」第2次燕市総合計画の実績等に対する評価等に対する要因分析・説明

【実績等】要因分析・説明

- 企業等の生産性向上や技術高度化を図るため、産学官金によるネットワーク型組織「IoT 推進ラボ」を新潟県、長岡市、柏崎市に統一して、令和元年度に設立し、企業のIoT 推進に取り組んでいます。
- 本市のおもてなしカトラリーが2020 東京オリンピック・パラリンピックの選手村で採用され、世界中から来る選手たちに、ものづくりのまち・県をPRしました。
- 新潟県知事から県内第1号で土地利用調整計画の同意を受け、民間における土地利用を推進しているほか、小国地内約3.6ヘクタールや、物流センター地内約0.8ヘクタールを造成し、周辺企業とのマッチングを行うなど、産業用地の確保・整備による企業立地を促進しました。
- 産学官連携による産業振興協議会を平成30年度に立ち上げ、地場企業に対する効果的な施策の検討および推進を図っているほか、新商品・新技術開発や展示会出展に係る費用の補助金等、多方面からの支援を行っています。

それぞれの指標項目は着実に増加しており、今後も企業のニーズを把握しながら、引き続き施策を展開していく必要があります。また、「地場産業」は高いものの、「雇用対策」は平均値以下であるため、企業の人材不足対策や、正規雇用の創出などの対策が必要です。

まちづくりに対する満足度の経年変化  
(10ページに見方を説明)

## 「まちづくりに対する満足度の経年変化」の見方

毎年実施している「これからのまちづくりのための市民意識調査(※)」にて、それぞれの施策の「満足度」と「重要度」をお聞きし、市政運営の基礎資料として活用しています。この表(まちづくりに対する満足度の経年変化)は、その回答を指数化し、相関関係を4象限で表したものです。

下記の算出方法で数値化した令和3年度アンケート調査における「満足度」の平均値は 0.04、「重要度」の平均値は 1.26 です。

### □ 指数の算出について

✓ 満足度指数は各項目の回答を、「満足」:2 点、「どちらかと言えば満足」:1 点、「わからない」:0 点、「どちらかと言えば不満」:-1 点、「不満」:-2 点として、当該施策に対する有効回答者数の合計で除した。

(例)「地場産業の振興」について、75 人は「満足」、349 人は「どちらかと言えば満足」、262 人は「わからない」、118 人は「どちらかと言えば不満」、27 人は「不満」と回答した。有効回答者数は 852 人中 831 人である。この場合、満足度指数は…

$(75 \text{ 人} \times 2 \text{ 点} + 349 \text{ 人} \times 1 \text{ 点} + 262 \text{ 人} \times 0 \text{ 点} + 118 \text{ 人} \times -1 \text{ 点} + 27 \text{ 人} \times -2 \text{ 点}) \div 831 \text{ 人} = \text{約 } 0.39$

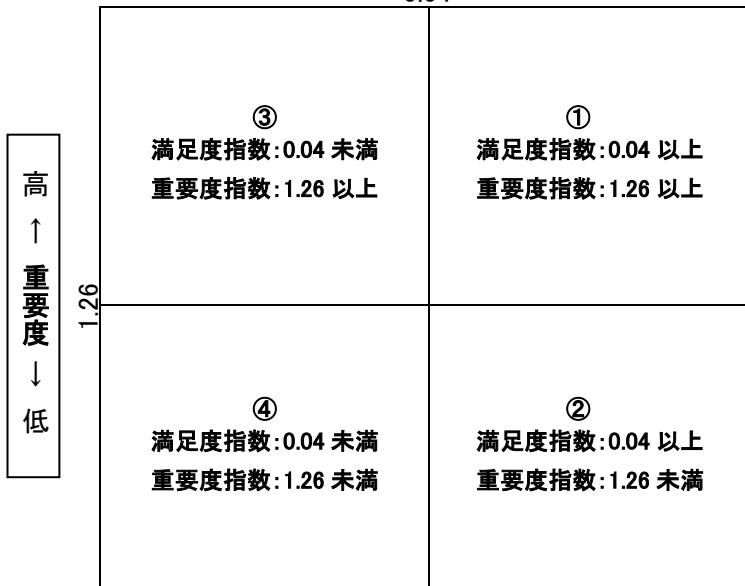
✓ 重要度指数は各項目の回答を、「重要」:2 点、「やや重要」:1 点、「あまり重要ではない」:-1 点、「重要ではない」:-2 点として、その施策に対する有効回答者数の合計で除した。

✓ 図の原点は各指標の平均(満足度:0.04、重要度:1.26)となっている。

### ■図の見方

低 ← 満足度 → 高

0.04



#### ①満足度も重要度も高い施策

満足度を低下させないために、現在の水準を維持・向上させることが求められる可能性のある施策。

#### ②満足度は高いものの重要度は低い施策

当該施策の社会的意義や法律的な義務付け等への配慮は必要であるものの、財政状況によっては見直しを行う可能性のある施策。

#### ③満足度が低く重要度が高い施策

住民の期待に対して十分対応できていない施策であることから、住民満足度を向上するために最も優先して取り組まなければならない可能性のある施策。

#### ④満足度も重要度も低い施策

重要度(住民の期待)が低いため、満足度を上げるための対策は必ずしも緊急ではない可能性のある施策。

※これからのまちづくりのための市民意識調査:住民基本台帳から無作為抽出した満 18 歳以上の 2,000 人に対して行っているアンケート調査

# 戦略1 定住人口増戦略

## 基本方針1 雇用・就労を支える産業の振興

### 施策1 ものづくり産業の活性化

指標項目	基準値	R1実績値	R2実績値	R3見込値	R3見込値の最終目標値達成率	最終目標値(R4)
製造品出荷額等	384,460 百万円 (H25)	431,670 百万円 (H29)	443,923 百万円 (H30)	426,134 百万円 (R1)	78.6%	437,500 百万円
金属製品製造品出荷額	82,660 百万円 (H25)	96,555 百万円 (H29)	98,034 百万円 (H30)	95,217 百万円 (R1)	達成	92,400 百万円
従業員一人当たり製造業付加価値額	8,180 千円 (H25)	8,420 千円 (H29)	8,558 千円 (H30)	8,233 千円 (R1)	3.6%	9,640 千円

#### 【指標項目】

- 平成 20 年のリーマンショックにより、全国的に大きな落ち込みがみられる指標項目「製造品出荷額」は、本市と同様に製造業を基幹産業とする他都市と比較して、順調に回復・増加傾向にあります。

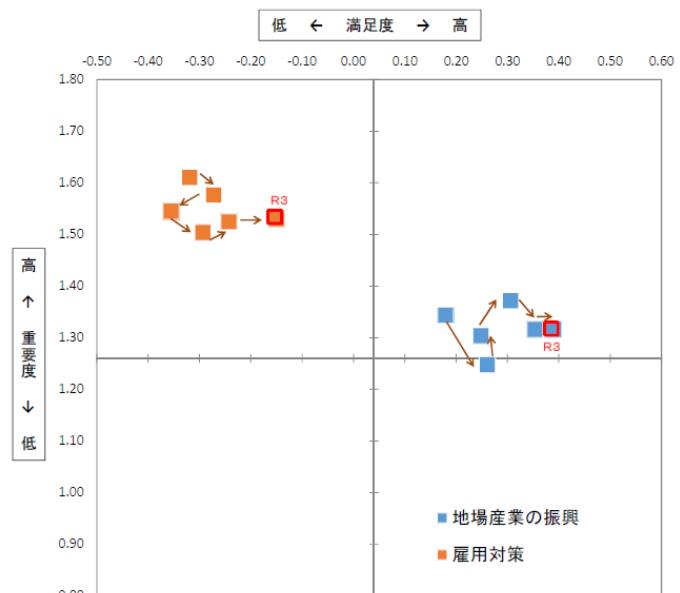
#### 【市民満足度】

- まちづくりに対する満足度と重要度(右図)の「雇用施策」の満足度は平均値以下ではあるものの、「地場産業の振興」「雇用対策」とともに、上昇傾向にあります。

#### 【実績等】

- 企業等の生産性向上や技術高度化を図るため、产学官金によるネットワーク型組織「IoT 推進ラボ」を、新潟県、長岡市、柏崎市に続いて、令和元年度に設立し、企業の DX 推進に取り組んでいます。
- 本市のおもてなしカトラリーが東京 2020 オリンピック・パラリンピックの選手村で採用され、世界中から集まる選手たちに、ものづくりのまち・燕を PR しました。
- 地域未来投資促進法に基づき、市で重点的に企業立地の促進を図る区域を定めた土地利用調整計画を策定し、成長性の高い企業が立地しやすいよう支援しているほか、小関地内の約 3.6ha や物流センター地内の未利用地であった用地約 0.8ha を造成し、周辺企業とのマッチングを行うなど、産業用地の確保・整備による企業立地を促進しました。
- 産官金連携による産業振興協議会を平成 30 年度に立ち上げ、地場産業に対する効果的な施策の検討および推進を図っているほか、新商品・新技術開発や展示会出展に係る費用の補助金等、多方面からの支援を行っています。

「まちづくりに対する満足度と重要度(市民意識調査)」の経年変化



それぞれの指標項目は着実に増加しており、今後も企業のニーズを把握しながら、引き続き施策を展開していく必要があります。また、「地場産業の振興」の満足度は高いものの、「雇用対策」は平均値以下であるため、企業の人材不足対策や、正規雇用の創出などの対策が必要です。

## 施策2 新たな産業育成・創業の支援

指標項目	基準値	R1実績値	R2実績値	R3見込値	R3見込値の最終目標値達成率	最終目標値(R4)
新規創業者数(年間)	26人(H26)	29人(R1)	41人(R2)	46人(R3)	83.3%	50人
参考指標	全事業所数 (※H21年度は事業所のうち、民営かつ事業内容が不明でないものを使用)	5,690事業所(H26)	—	5,530事業所(R1)	—	—
	従業者4人以上の製造業の事業所数	709事業所(H25)	704事業所(H30)	701事業所(R1)	677事業所(R2)	—

### 【指標項目】

- 指標項目「新規創業者数(年間)」は、令和4年度の最終目標値50人に對し、46人(令和3年度見込値)となりました。関係機関と連携し、創業関連のセミナー等を開催するとともに、創業に係る補助制度などの周知を行ってきた結果、複数のサービス業の創業に結びつきました。
- 参考指標「従業者4人以上の製造業の事業所数」は、県内の事業所数が減少傾向にある中で、最も低い減少率となっています。

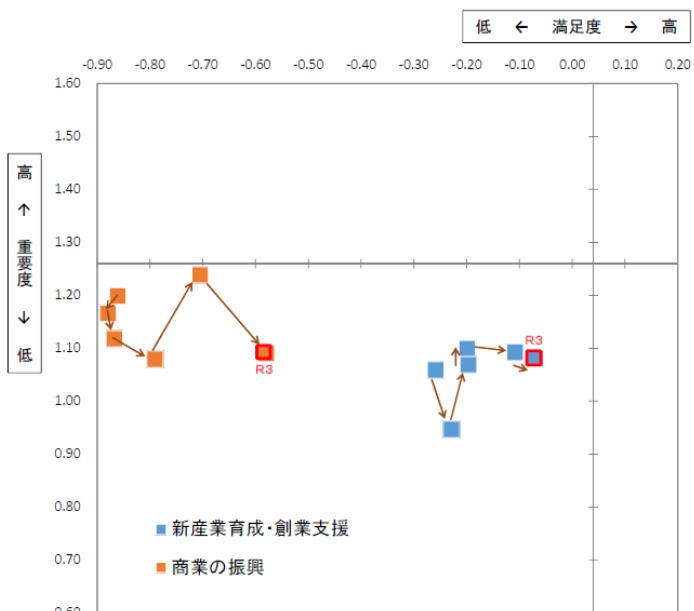
### 【市民満足度】

- まちづくりに対する満足度と(右図)の「新産業育成・創業支援」「商業の振興」の満足度は平均値以下であるものの、上昇傾向にあります。

### 【実績等】

- 首都圏からのテレワーカー等の誘致と市内の創業環境の向上を図るため、民間によるシェオフィス等の開設を支援する補助制度を創設しました。令和3年度中に3カ所のシェオフィスが開設されます。
- 商店街の魅力向上とまちなかの活性化を目指し、空き店舗のリノベーション費用の補助や賑わい創出イベントを実施しています。
- 創業しやすい環境のさらなる充実に向け、随時制度の見直しを図りながら、新規創業者への家賃補助などを行っています。
- 次世代産業への参入促進に向け、医療機器やフィギュアスケートブレードの開発・研究に対する支援を行っています。
- 円滑な事業承継を支援するため、小規模企業者の生産性向上に資する設備投資資金の一部について、利子相当額を助成する制度を設けています。

### 「まちづくりに対する満足度と重要度(市民意識調査)」の経年変化



施策の成果は着実に生まれているものの、「商業の振興」「新産業育成・創業支援」の満足度はまだまだ低いため、事業の改善や市民に対する更なる周知が必要です。

### 施策3 変化に対応する農業の振興

指標項目	基準値	R1実績値	R2実績値	R3見込値	R3見込値の最終目標値達成率	最終目標値(R4)
ブランド米販売実績	33.3トン(H26)	35.0トン(R1)	26.2トン(R2)	32.1トン(R3)	基準値以下	38.0トン
直播栽培面積(コスト低減)	5.4%(H26)	9.1%(R1)	9.5%(R2)	10.8%(R3)	71.1%	13.0%
担い手の集積率	59.5%(H26)	72.6%(R1)	72.0%(R2)	72.0%(R3)	48.1%	85.5%
担い手の集積面積	3,386ha(H26)	4,092ha(R1)	4,043ha(R2)	4,043ha(R3)	44.3%	4,868ha
主食用水稻に占める化学肥料・化学合成農薬の5割以上の低減による作付割合	27.6%(H26)	22.3%(R1)	22.1%(R2)	22.0%(R3)	基準値以下	32.7%
30 アール区画以上のは場整備率	64.5%(H26)	66.6%(R1)	67.7%(R2)	68.6%(R3)	達成	66.5%

#### 【指標項目】

- 指標項目「担い手の集積率」は、目標値には達していないものの、県内で1位の集積となっています。(新潟県農林公社農地中間管理事業の令和2年度事業報告書より)
- 指標項目「30 アール区画以上のは場整備率」は、目標値を達成しており、県内20市中10番目に位置しています。

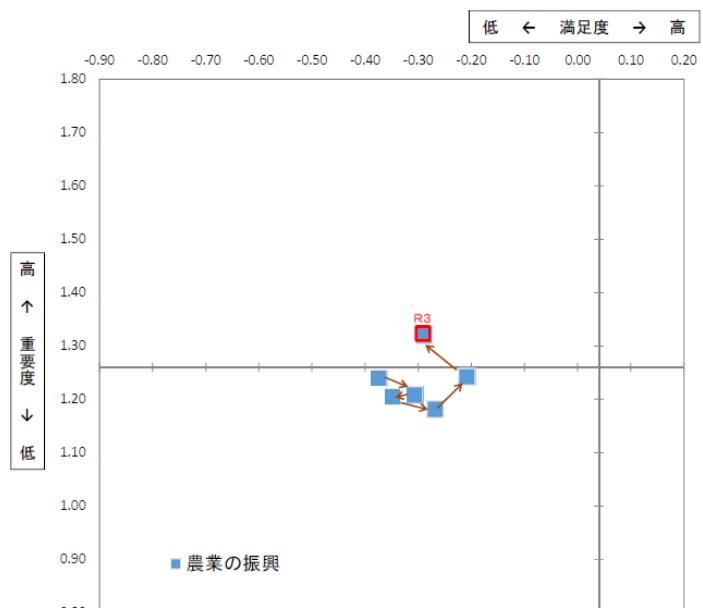
#### 【市民満足度】

- まちづくりに対する満足度と重要度(右図)の「農業の振興」の満足度は、平均値以下で推移しています。

#### 【実績等】

- 担い手確保のための補助制度をはじめ、販路拡大イベントや商談会への出店、つばめ“食べて”応援キャンペーンなどを通じて、燕市産農産物の販路開拓を進めているほか、農商工連携活動への支援などを行っています。
- 経営規模拡大に必要な機械等の購入や、農業経営の複合化、先進技術導入など、チャレンジする農業者への補助制度を実施しています。
- 燕市独自でブランド(飛燕舞、つば九郎米)を立ち上げ、販売促進を図っています。
- 直播栽培や化学肥料・化学合成農薬を5割以上低減する栽培を推奨し、各種支援策を実施しています。

「まちづくりに対する満足度と重要度(市民意識調査)」の経年変化



担い手への集積率が高く、他自治体との比較でも充実した事業展開を行っているものの、「農業の振興」の満足度が平均値以下で推移しているため、事業の改善や市民に対する成果等の周知が必要です。

## 基本方針2 地域に根ざした教育の推進・子育て支援

### 施策1 知・徳・体を育成する教育の推進

指標項目	基準値	R1実績値	R2実績値	R3見込値	R3見込値の最終目標値達成率	最終目標値(R4)
全国標準学力検査(NRT)偏差値平均 50 以上の中学1年生から3年生の教科の数(国語・数学・英語)	6教科(H27)	2教科(R1)	2教科(R2)	3教科(R3)	基準値以下	8教科
「学校に行くのは楽しい」と回答した小学6年生の割合	89.0%(H27)	86.2%(R1)	—	88.8%(R3)	基準値以下	92.0%
「学校に行くのは楽しい」と回答した中学3年生の割合	84.4%(H27)	83.1%(R1)	—	85.9%(R3)	57.7%	87.0%
「将来の夢や目標を持っている」と回答した小学6年生の割合	86.2%(H27)	80.1%(R1)	—	77.1%(R3)	基準値以下	90.0%
「将来の夢や目標を持っている」と回答した中学3年生の割合	71.5%(H27)	65.6%(R1)	—	71.6%(R3)	1.2%	80.0%

#### 【指標項目】

- 指標項目「全国標準学力検査偏差値平均 50 以上の中学1年生から3年生の教科の数」が減少しています。このため、令和3年度より、読解力育成を目的としたプロジェクトを県内で初めて開始しました。

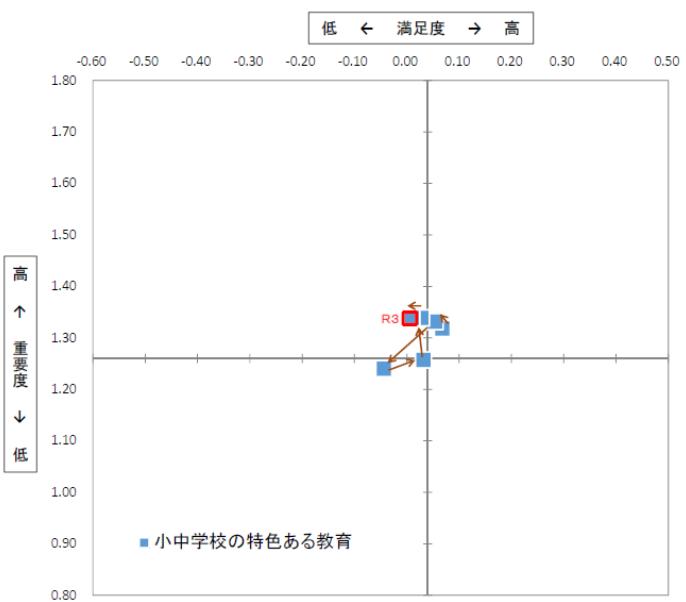
#### 【市民満足度】

- まちづくりに対する満足度と重要度(右図)の「小中学校の特色ある教育」の満足度は、ほぼ平均値で推移しています。

#### 【実績等】

- 新潟大学教育学部パートナーシップ事業では、大学教授等による指導を受け、教員が授業改善を図っているほか、中学校学力向上プロジェクトでは、国語担当者会議、数学担当者会議を開催し、授業づくりについて研修しています。
- 児童・生徒に1人1台配置したタブレットPCを活用し、学校教育の情報化やオンライン学習の整備に取り組んでいます。
- 中学校の「燕長善タイム」では、授業の振り返りと家庭学習への接続を図る取組を行っています。
- 「Jack & Betty プロジェクト(英語教室等)」、「つばくろロボキッズ教室(プログラミング教室)」、「長善館学習塾(様々な体験プログラム)」、「広報つばめ子ども記者(記者体験)」など、本市独自の教育プログラムを開催し、子どもたちの新たな可能性を広げています。

「まちづくりに対する満足度と重要度(市民意識調査)」の経年変化



平均的な学力は、小学校4年生頃から学年が上がるにつれ低下傾向にあり、学力向上に向けた取組が必要です。「小中学校の特色ある教育」の満足度が平均値付近で推移しているため、感染症対策と教育活動を両立させ、魅力ある学校づくりを推進していきます。

## 施策2 安心して産み育てられる子育て支援

指標項目	基準値	R1実績値	R2実績値	R3見込値	R3見込値の最終目標値達成率	最終目標値(R4)
子育て支援に対して満足と答えた人の割合(市民意識調査)	31.9% (H26)	38.0% (R1)	37.3% (R2)	36.0% (R3)	14.6%	60.0%
特定不妊治療助成事業利用者の出生数(累計)	39人 (H23～H26)	104人 (H23～R1)	120人 (H23～R2)	142人 (H23～R3)	達成	134人
育児相談会・育児教室参加者(年間延べ数)	2301人 (H26)	1,496人 (R1)	784人 (R2)	904人 (R3)	基準値以下	2,596人
育児が楽しいと感じる人の割合(乳幼児健診時のアンケート調査)	71.7% (H26)	68.8% (R1)	67.9% (R2)	66.6% (R3)	基準値以下	75.0%
病児・病後児保育の利用者数	462人 (H26)	657人 (R1)	157人 (R2)	451人 (R3)	基準値以下	658人
地域子育て支援センター利用者(年間延べ数)	37,286人 (H25)	60,789人 (R1)	21,771人 (R2)	19,500人 (R3)	基準値以下	74,300人

### 【指標項目】

- 指標項目「病児・病後児保育の利用者数」「地域子育て支援センター利用者」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者数が減少しました。
- 指標項目「育児相談会・育児教室参加者」の事業は保健センターにて開催していますが、子育て支援センター等でも育児相談ができる体制を整備したことに加え、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、事業の中止や見直しを行ったことにより、参加者数が減少しました。一方で、コロナ禍でも安心して相談できる体制として、令和2年度より、オンラインでの相談も受付を開始しました。

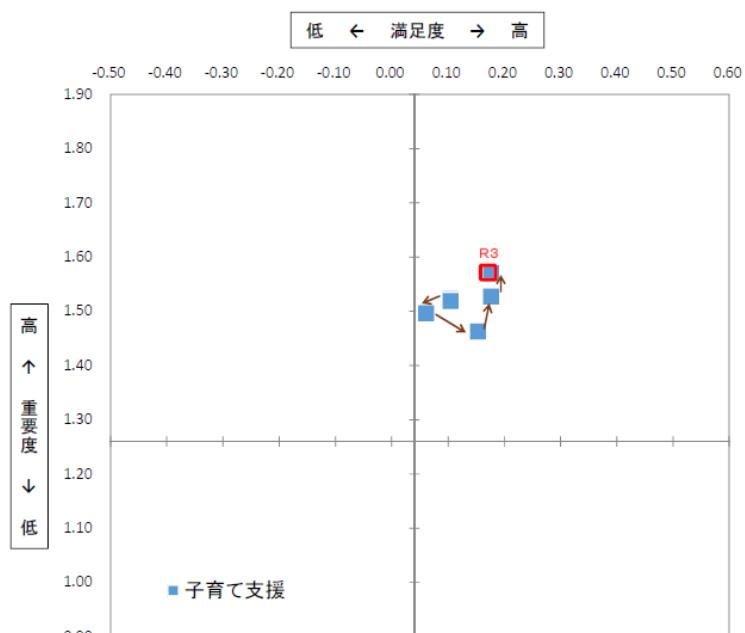
### 【市民満足度】

- まちづくりに対する満足度と重要度(右上図)の「子育て支援」の満足度は、平均値以上となっています。

### 【実績等】

- 平成30年度に府内の関係部署を横断する「人口減少対策プロジェクトチーム」を組織し、出生数減少の要因分析や子育て世帯へのアンケート、他自治体との子育て支援事業の比較を行い、様々な子育て支援事業等の新規拡充を図りました。
- 特定不妊治療費助成事業では、新潟市、上越市に次いで3位の助成件数となっています。
- 3歳児健診での視力屈折検査について、令和元年度に県内で初めて事業化し、今まで発見しにくかった弱視などの早期発見・早期治療に結びついています。
- 女性の就業率が高い燕市の特徴に合わせ、妊婦・両親学級を毎月土曜日に開催し、令和2年度実績では初産婦の約5割の参加率となっています。
- 子育て世帯からの要望の多かった「全天候型子ども遊戯施設」の整備に向けての取組を開始し、「全天候型子ど

「まちづくりに対する満足度と重要度(市民意識調査)」の経年変化



も遊戯施設整備基本構想」を策定しました。令和6年度中のオープンを目指し、取組を進めています。

- ニーズに応じた保育施設の受入態勢整備を行い、待機児童数は0人となっています。
- 一時保育などの保護者ニーズに応え、保育士等の一時的な配置に柔軟に対応するため、保育士等の有資格者から事前登録をしていただく「保育士等人材バンク」を平成29年度に県内で初めて導入しました。
- 子育てコンシェルジュ(国が定める研修を受けた子育て支援員)の育成を令和2年度より開始し、令和4年度中にすべての公立子育て支援施設に配置します。
- 妊娠中の健康記録や子どもの成長記録、予防接種のスケジュール管理、市からのお知らせなどが取得できる子育てアプリ「はぐはぐ」を運用しています。
- 県内20市中19市が「妊娠婦医療費助成」を実施していますが、妊娠婦の自己負担が生じない「全額助成」を実施しているのは本市を含め4市のみとなっています。更に本市では、医療機関での一時支払が生じない「現物方式」による助成を実施するとともに、助成の始期は「妊娠届を出した日から」としています。より早期に助成を開始することで妊娠婦の経済的な負担の軽減を図り、安心して妊娠・出産できるよう、県内最良の助成内容を提供しています。
- 子ども医療費助成事業について、県内20市中、本市を含む19市において助成対象年齢を高校卒業までとしています。また、令和3年度から受給者証の有効期限を「最大1年間」から「対象者の高校卒業まで」に変更し、子どもが18歳になるまで安心して助成が受けられるよう受給者の利便性の向上を図っています。

充実した子育て支援事業の展開により、子育て施策の満足度は平均値以上となっています。引き続き、子育て世代のニーズ把握に努め、施策を展開していく必要があります。

## 基本方針3 健やかな暮らしを支える医療福祉の充実

### 施策1 医療サービスの機能強化

指標項目	基準値	R1実績値	R2実績値	R3見込値	R3見込値の最終目標値達成率	最終目標値(R4)
病気になった時の医療体制に対する不満と答えた人の割合(市民意識調査結果)	46.6% (H26)	47.3% (R1)	50.2% (R2)	49.8% (R3)	基準値以下	30.0%
休日在宅当番医の実施率	100.0% (H26)	100.0% (R1)	100.0% (R2)	100.0% (R3)	達成	100.0%
土日祝日の二次救急病院開院率	100.0% (H26)	100.0% (R1)	100.0% (R2)	100.0% (R3)	達成	100.0%

#### 【指標項目】

- 指標項目「病気になった時の医療体制に対する不満と答えた人の割合」は、増加傾向にあります。

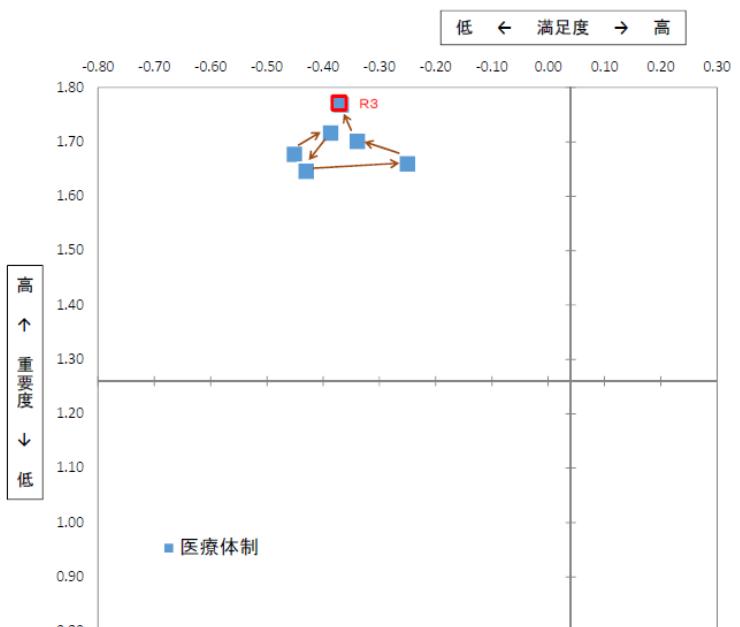
#### 【市民満足度】

- まちづくりに対する満足度と重要度(右図)の「医療体制」の満足度は、平均値以下が続いており、重要度は増加傾向にあります。この要因は、県央地域の救急搬送の受入体制が整っていないことが要因の1つであると考えられます。

#### 【実績等】

- 県央地域では、病院勤務医数が減少していることに加えて医師の働き方改革への対応も必要であるなど、急性期機能の確保は困難な状況であり、救急を断らない病院、若手医師がキャリアアップできる病院機能を担う中核病院の整備と近隣医療圏との連携強化した医療提供体制の構築が必要となっています。
- これまで、県に対し県央基幹病院の早期整備と県立吉田病院の機能充実を要望してきました。県央基幹病院は、令和5年度中の開院を目指しています。

「まちづくりに対する満足度と重要度(市民意識調査)」の経年変化



「医療体制」の満足度の向上のためには、県央基幹病院の早期開院と県立吉田病院の早期改築が必須です。引き続き、県に対して要望していく必要があります。

## 施策2 地域で支える高齢者福祉

指標項目	基準値	R1実績値	R2実績値	R3見込値	R3見込値の最終目標値達成率	最終目標値(R4)
高齢者の生きがいづくりや介護制度の充実に対して満足と答えた人の割合(市民意識調査結果)	35.2% (H26)	39.4% (R1)	34.5% (R2)	31.0% (R3)	基準値以下	40.0%
介護予防体操を行う自主グループの登録者数	414 人 (H26)	568 人 (R1)	567 人 (R2)	557 人 (R3)	50.0%	700 人
要介護認定率	18.1% (H26)	18.8% (R1)	18.9% (R2)	18.9% (R3)	達成	介護保険事業計画で推計した認定率を下回る

### 【指標項目】

- 指標項目「高齢者の生きがいづくりや介護制度の充実に対して満足と答えた人の割合」は、令和元年度には 39.4%でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により他者との交流が制限されたことから、令和2・3年度の満足度が低下したものと考えられます。

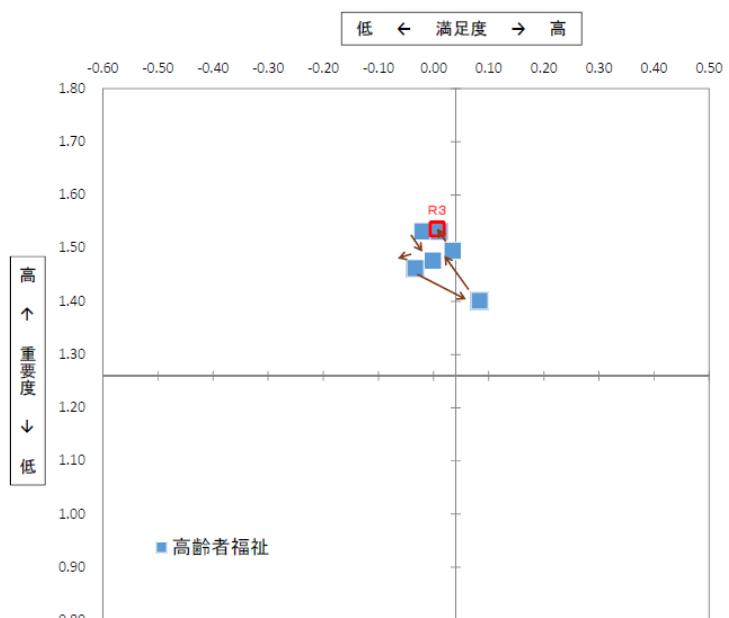
### 【市民満足度】

- まちづくりに対する満足度と重要度(右図)の「高齢者福祉」の満足度は、ほぼ平均値となっており、2年連続で微減しました。

### 【実績等】

- 一人暮らしや高齢者のみの世帯に対して、緊急通報システムや徘徊探知システムの貸与、配食サービス、紙おむつ支給、寝具乾燥サービス、訪問理美容サービスなど、充実したサービスを提供しています。
- 健康増進計画実践プロジェクト活動支援事業では、本市の健康課題解決を市民協働で推進してきました。病気を予防する活動に留まらず、生きがい、役割、自分らしさ、つながりなど、元気増進を目的とした市民主体の活動を実践しています。
- 介護予防効果のある「レインボー健康体操」と「スクエアステップ」を 1 か月(4回分)無料で体験できる「お試し教室」を実施し、新規グループの立ち上げを行っています。「お試し教室」で運動の効果を実感することが、運動継続の動機付けとなり、毎年1~2つの自主グループが活動を開始しています。
- 筑波大学の協力を得て、介護予防体操に取り組んでいる群と体操を実施していない群の体力測定と調査研究を実施しています。継続して体操に取り組んでいる群には、下肢筋力と歩行能力に有意な改善がみられています。
- 介護人材の確保と定着を図るため、市内事業所に 10 年以上勤務した介護職員を表彰する「キャリアテン介護職員等表彰制度」を行っています。
- 介護保険制度の円滑な運営と適切な介護サービスの提供に努めています。

「まちづくりに対する満足度と重要度(市民意識調査)」の経年変化



充実した高齢者福祉サービスを提供しており、「高齢者福祉」の満足度は平均値付近です。引き続き高齢者やその家族の声に耳を傾け、ニーズに合ったサービスの提供と事業の周知を行う必要があります。

### 施策3 障がいのある人への切れ目のない支援

指標項目	基準値	R1実績値	R2実績値	R3見込値	R3見込値の最終目標値達成率	最終目標値(R4)
障がいのある人への支援に対して不満と答えた人の割合(市民意識調査)	20.7% (H26)	22.1% (R1)	21.5% (R2)	18.5% (R3)	52.4%	16.5%
福祉的就労施設利用者(就労移行支援、就労継続支援A・B)	215人 (H26)	259人 (R1)	251人 (R2)	277人 (R3)	達成	268人
つながりのある療育支援体制の形成	無 (H26)	有 (R1)	有 (R2)	有 (R3)	達成	有

#### 【指標項目】

- 指標項目「障がいのある人への支援に対して不満と答えた人の割合」は改善傾向にあります。

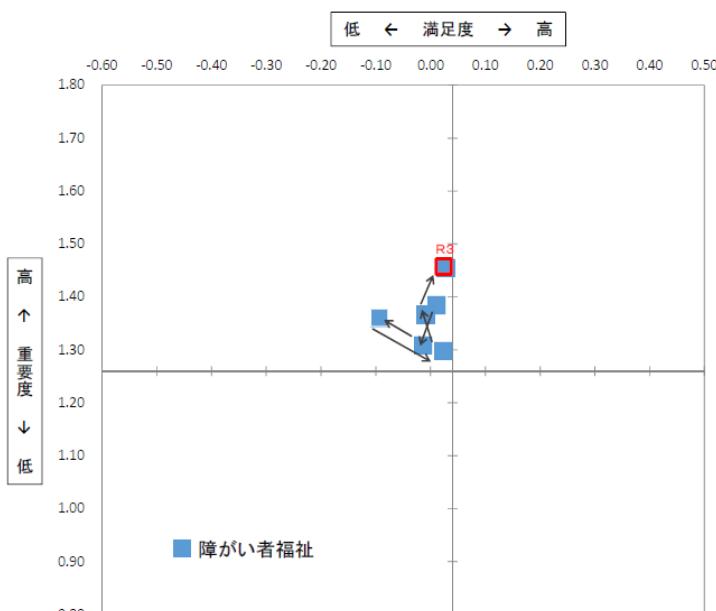
#### 【市民満足度】

- まちづくりに対する満足度と重要度(右図)の「障がい者福祉」の満足度は、ほぼ平均値となっています。

#### 【実績等】

- 福祉的就労については、官民協働の取り組みにより、県平均よりも高い工賃の支払実績となっています。
- 燕市在宅重度心身障害児者等介護手当支給事業については、県内20市中、本市を含めた13市が支給を実施しています。本市の支給額は在宅20,000円/月、通所通学10,000円/月で、県内20市の比較では、充実した金額となっています。
- 燕市心身障害者扶養共済保険掛金補助事業について、本市では掛金の一率7割を補助しており、県内20市の比較では充実した補助割合となっています。そのため扶養共済の加入率は県内トップクラスです。
- 燕市障がい者社会福祉施設整備事業費補助事業は、県内20市中、本市以外に実施している市は少なく、補助制度は充実しています。
- 燕市身体障害者補装具等自己負担額助成事業は、支給決定した自己負担額2分の1を助成しており、県内市町村との比較では充実した事業となっています。
- 乳幼児期から学校卒業後までの切れ目のない支援を行うため、保健・医療・保育・教育・福祉等関連部署による協議を進め、令和2年度に「つながる支援体制」を構築しました。

「まちづくりに対する満足度と重要度(市民意識調査)」の経年変化



充実した障がい者福祉サービスを提供していますが、「障がい者福祉」の満足度は平均値付近を推移しています。引き続き障がいのある人やその家族の声に耳を傾け、ニーズに合ったサービスの提供と事業の周知を行う必要があります。

## 基本方針4 移住・定住の促進

### 施策1 移住・定住希望者へのサポート強化

指標項目	基準値	R1実績値	R2実績値	R3見込値	R3見込値の最終目標値達成率	最終目標値(R4)
移住相談者に係る本市定住者数	—	46人(R1)	30人(R2)	22人(R3)	達成	10人
社会動態(純移動数)(年間)	-88人(H26)	-85人(R1)	-78人(R2)	-16人(R3)	81.8%	±0人

#### 【指標項目】

- 指標項目「社会動態」は、マイナス幅が縮小傾向にあります。

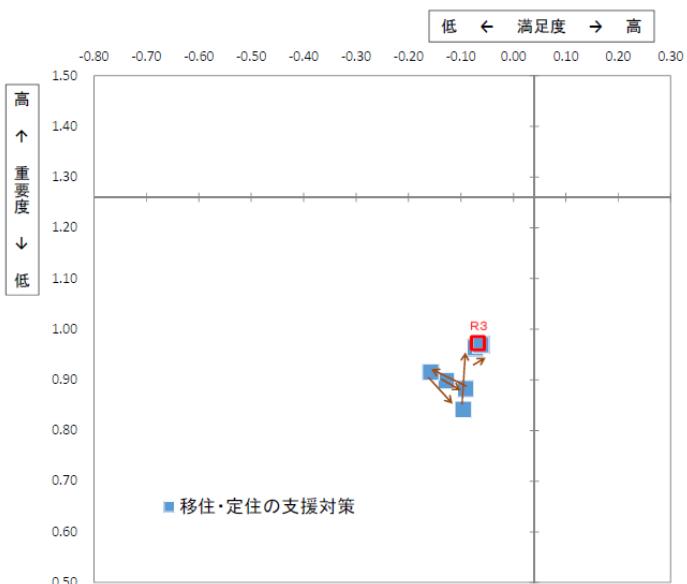
#### 【市民満足度】

- まちづくりに対する満足度と重要度(右図)の「移住・定住の支援対策」の満足度は、平均以下が継続しています。

#### 【実績等】

- 移住を検討している人に燕市の暮らしや仕事について知つてもらうため、参加者の希望に沿った日時やルートでのオーダーメイド型の移住体験ツアーを実施しています。
- 「おためし生活体験事業」では、移住ツアーを実施する際に、ツアー参加者からホームステイのような体験をしてもらい、市民との触れ合いの機会を増やすことで、より深く燕市について知つてもらっています。
- 降雪時における車の運転に不慣れな移住者を対象とした「初めての冬に備える講習会」を開催し、必要な備えなどの講習を行っています。雪国での生活に不安を抱えている人に安心感を与えるとともに、移住者同士での交流の場を提供することにより、好評いただいています。
- 市外からのU・Iターン希望者や働き盛り世代などの転入に対して、住宅取得費を最大100万円助成しています。
- 市外地中心部への定住を促進させるため、燕市立地適正化計画で定める居住誘導区域内に住宅を取得する子育て世帯などに対し、最大25万円を助成しています。
- 県外からのU・Iターン者や市外からの新婚世帯等に、賃貸住宅の家賃を補助しています。また、家賃補助利用者には、定期的にメルマガで定住促進やイベントの案内をするなど、きめ細やかなフォローに努めています。

#### 「まちづくりに対する満足度と重要度(市民意識調査)」の経年変化



充実した事業を実施し、移住の実績も上がっているものの、「移住・定住の支援対策」の満足度は平均以下となっています。市民向けに、事業内容や実績のPR強化を行う必要があります。

## 戦略2 活動人口増戦略

### 基本方針1 市民が主役の健康づくり・生きがいづくり

#### 施策1 元気を磨く健康づくり

指標項目	基準値	R1実績値	R2実績値	R3見込値	R3見込値の最終目標値達成率	最終目標値(R4)
胃がん検診受診率	18.9% (H26)	16.2% (R1)	11.0% (R2)	12.6% (R3)	基準値以下	50.0%以上
大腸がん検診受診率	33.7% (H26)	38.0% (R1)	27.2% (R2)	27.9% (R3)	基準値以下	50.0%以上
肺がん検診受診率	44.8% (H26)	43.5% (R1)	20.2% (R2)	24.8% (R3)	基準値以下	50.0%以上
子宮がん検診受診率	60.1% (H26)	73.8% (R1)	68.7% (R2)	59.3% (R3)	基準値以下	80.0%以上
乳がん検診受診率	35.8% (H26)	46.1% (R1)	38.8% (R2)	37.3% (R3)	10.6%	50.0%以上
胃がん男性死者数 (直近5カ年の対10万人当たり平均)	80.6人 (H21～H25年の平均)	62.3人 (H26～H30年の平均)	63.8人 (H27～R1年の平均)	59.0人 (H28～R2年の平均)	達成	69.3人
大腸がん女性死者数 (直近5カ年の対10万人当たり平均)	45.4人 (H21～H25年の平均)	39.8人 (H26～H30年の平均)	52.5人 (H27～R1年の平均)	54.9人 (H28～R2年の平均)	基準値以下	39.0人
特定保健指導率	36.2% (H26)	62.7% (H30)	63.3% (R1)	57.9% (R2)	91.2%	60.0%以上

#### 【指標項目】

- 指標項目にある各種「がん検診受診率」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していた検診が延期または中止となつたため、一部を予約制にしたり、施設検診(医療機関診察)にしたりして検診日程は確保したもの、感染を心配してかコロナ禍以前の水準に戻りませんでした。

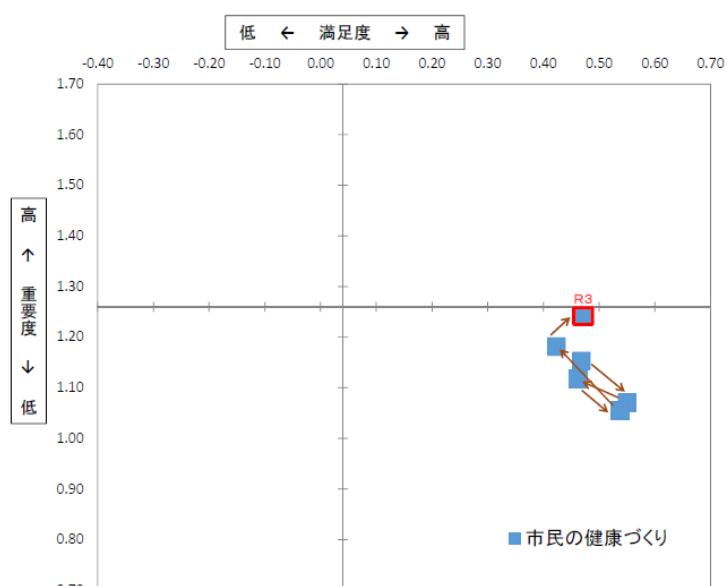
#### 【市民満足度】

- まちづくりに対する満足度と重要度(右図)の「市民の健康づくり」の満足度は、平均値よりもかなり高い数値となっています。

#### 【実績等】

- 特定健診の結果、生活習慣の改善が必要な対象者に対し、早期に支援を開始し生活習慣の改善に向けた取り組みが継続できるよう保健指導を実施しました。保健指導率は6割前後で推移しています。
- 特定保健指導の対象者への支援は、面接・電話・メール・手紙などライフスタイルに合わせた手法を組み合わせて実施しています。個別指導だけでなく、生活習慣病予防教室や相談会等のグループ支援も併せて行い、保健指導の機会を多くしています。

「まちづくりに対する満足度と重要度(市民意識調査)」の経年変化



- 医師会や関係機関と共有するツールを活用しながら連携を図り、生活習慣の改善と重症化予防のための支援を実施しています

検診機会の充実やきめ細かな保健指導などの実施により、「市民の健康づくり」の満足度は平均値を大きく上回っています。引き続き、市民に寄り添った事業を実施していく必要があります。

## 施策2 健全な心と体を支えるスポーツの推進

指標項目	基準値	R1実績値	R2実績値	R3見込値	R3見込値の最終目標値達成率	最終目標値(R4)
市民一人当たりのスポーツ施設利用回数	10.58 回/年 (H26)	10.79 回/年 (R1)	5.50 回/年 (R2)	6.87 回/年 (R3)	基準値以下	10.82 回/年
地域総合型スポーツクラブ会員数	1,150 人 (H26)	1,327 人 (R1)	1,120 人 (R2)	1,072 人 (R3)	基準値以下	1,500 人
小学生の体力テストで県の平均得点を上回る割合	50.0% (H26)	43.8% (R1)	—	43.75% (R3)	基準値以下	100.0%

### 【指標項目】

- 指標項目「市民一人当たりのスポーツ施設利用回数」や「地域総合型スポーツクラブ会員数」は、増加傾向にあったものの、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、減少しました。

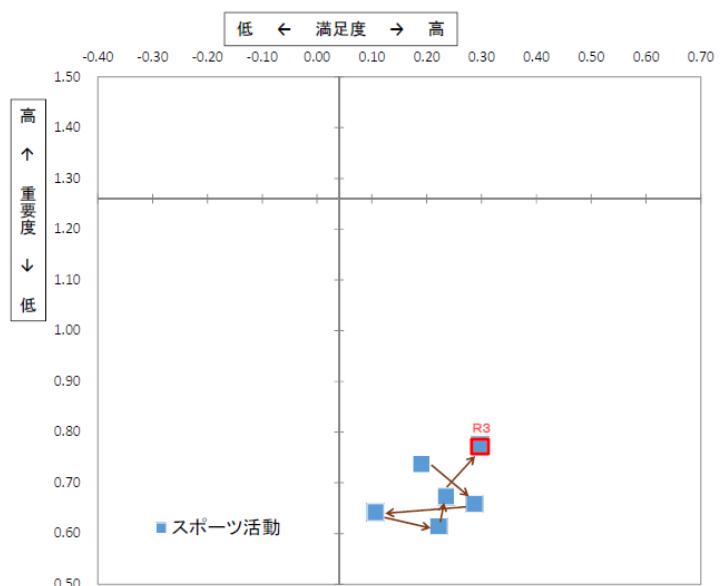
### 【市民満足度】

- まちづくりに対する満足度と重要度(右図)の「スポーツ活動」の満足度は、平均値よりも高い数値となっています。

### 【実績等】

- 市内 25 力所の体育施設を、燕市スポーツ協会・ミズノグループが指定管理しており、民間事業者ならではの質の高いサービスを提供しています。
- 信濃川や大河津分水路の雄大な景色を楽しみながら走ることができる「燕さくらマラソン大会」を開催し、県内外の多くのランナーから参加いただいています。
- 東京 2020 オリンピック・パラリンピックでのモンゴル国のホストタウンとしてパラアーチェリー選手団の合宿受入を行ったほか、日本人トップアスリートによるスポーツ教室などを開催しました。
- 部活動以外にも体力や技術の向上を目指したい中学生を対象に、部活動を補完する「つばくろいきいきスポーツクラブ」を設置し、生徒の希望に応えています。
- 全国規模のスポーツ大会に出場する選手・監督・コーチ等へ激励金を交付するとともに、市内小・中学生の保護者に遠征費の一部を補助し、関係者の費用負担の軽減を行っています。

「まちづくりに対する満足度と重要度(市民意識調査)」の経年変化



各種事業や充実したスポーツ施設の設置により、「スポーツ活動」の満足度は平均値を上回っています。引き続き、市民のニーズに合った事業を実施していく必要があります。

### 施策3 心豊かな生涯学習・文化活動の充実

指標項目	基準値	R1実績値	R2実績値	R3見込値	R3見込値の最終目標値達成率	最終目標値(R4)
市民一人当たりの講座・講演会等の参加回数	0.63回/年(H26)	0.58回/年(R1)	0.23回/年(R2)	0.25回/年(R3)	基準値以下	0.67回/年
文化協会加盟団体数	129団体(H26)	104団体(R1)	105団体(R2)	99団体(R3)	基準値以下	130団体

#### 【指標項目】

- 指標項目「市民一人当たりの講座・講演会等の参加回数」は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、減少しました。

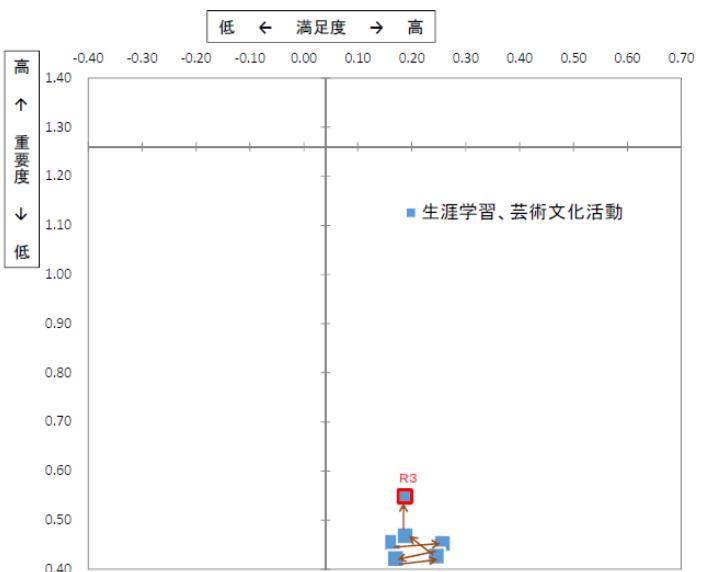
#### 【市民満足度】

- まちづくりに対する満足度と重要度(右図)の「生涯学習・芸術文化活動」の満足度は、平均値よりも高い数値となっています。

#### 【実績等】

- 市内3図書館を、株式会社図書館流通センターが指定管理しており、民間事業者ならではの質の高いサービスを提供しています。
- いつでもどこからでも利用できる「電子図書館」を県内で初めて導入したほか、読んだ本の履歴を残すことができる「本の通帳」を運用するなど、利用者を増やす取り組みを実施しています。
- 文化会館では、演劇鑑賞会やミュージカル、音楽祭など、幅広い世代が楽しめる舞台芸術等を提供しています。
- 長善館史料館、分水良寛史料館、産業史料館では、常設展示のほか特別展を開催し、入館者の拡大を図っています。
- 1年間を通じて教養を高め、技術を習得する「市民教養講座」や一つのテーマを複数の視点から深く掘り下げる「燕大学」、日々の暮らしに役立つ知識を楽しく学ぶ「つばめ目耕塾」を開催することにより、さまざまな学習機会を提供しています。
- 幼児から小学生までが参加できる「つばめっ子かるた大会」を開催し、郷土を愛する心を培うとともに、つばめっ子かるたの普及と活用の拡大を促進しています。
- 文化財を活用した動画「ブラつばめ」を制作し、小中学校のふるさと学習や、市民の文化財保護に対する理解を深めていただくことなどに活用しています。
- 埋蔵文化財事業では、各地区の圃場整備をはじめとした開発事業に伴う発掘調査を実施するとともに、出土した遺物等を展示した遺跡出土品展を開催しています。

「まちづくりに対する満足度と重要度(市民意識調査)」の経年変化



ライフステージに応じた学習機会の提供や文化活動の支援等により、「生涯学習、芸術文化活動」の満足度は平均値を上回っています。引き続き、市民のニーズに合った事業を実施していく必要があります。

## 基本方針2 支え合い・助け合い活動の活発化

### 施策1 支え合いの地域福祉

指標項目	基準値	R1実績値	R2実績値	R3見込値	R3見込値の最終目標値達成率	最終目標値(R4)
地域支え合い体制づくり実践地区数(まちづくり協議会数)	4 地区(H27.7)	6 地区(R1)	8 地区(R2)	9 地区(R3)	55.6%	全 13 地区
地域見守り協定締結数	2 箇所(H27.7)	7 箇所(R1)	7 箇所(R2)	7 箇所(R3)	達成	5 箇所
ボランティア・市民活動登録団体数	86 団体(H27.7)	127 団体(R1)	104 団体(R2)	100 団体(R3)	41.2%	120 団体
地域の交流場所数(ふれあいいきいきサロン)	79 箇所(H27.7)	72 箇所(R1)	69 箇所(R2)	72 箇所(R3)	基準値以下	87 個所

#### 【指標項目】

- 指標項目「ボランティア・市民活動登録団体数」は、令和元年度には 127 団体まで増加したもの、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、減少しました。
- 指標項目「地域の交流場所数」として指標に設定した「ふれあいいきいきサロン」の数は減少傾向にありますが、同じ地域の交流場所である「認知症カフェ」や「地域の茶の間」の数は増加傾向にあります。しかしながら、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、活動を休止した交流場所が複数ありました。

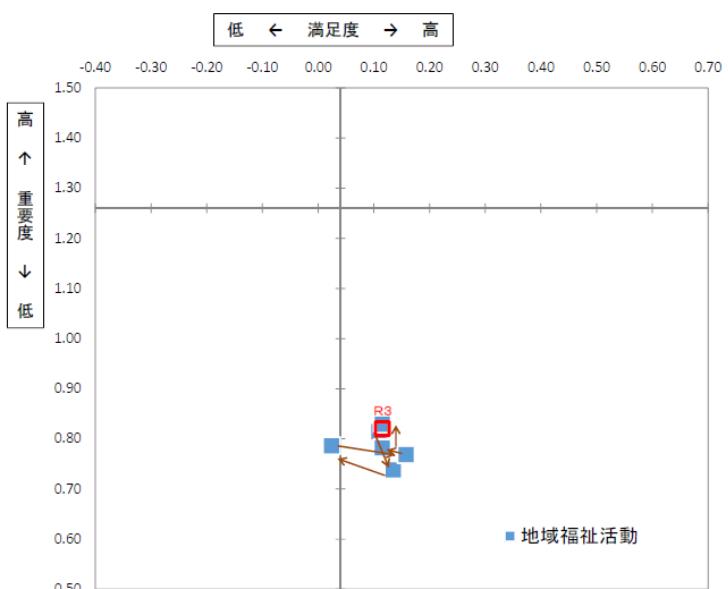
#### 【市民満足度】

- まちづくりに対する満足度と重要度(右図)の「地域福祉活動」の満足度は、平均値よりも高い数値で推移しています。

#### 【実績等】

- 高齢者は、自ら SOS の声をあげることが難しい場合が多く、地域包括支援センターなどの相談機関につながるのが遅くなることが地域の課題として上がりました。そこで、社会福祉協議会(生活支援コーディネーター)が、地域包括支援センターや地域住民も交えた話し合いを重ね「地域の気づきシート」を作成しました。身近な地域住民が高齢者の変化に早めに気づくためのツールとして、各地域に普及を図っています。
- 子ども食堂などの食事や学びの場を提供する団体に助成金を交付し、安定運営の継続を支援しています。
- 子どもの貧困対策を行うため、新潟県弁護士会と協定を締結し、連携を図っています。
- 成年後見制度の申立費用を助成し、制度の利用促進を図っているほか、生活困窮者への包括的な支援を行い、社会的・経済的な自立を促しています。

「まちづくりに対する満足度と重要度(市民意識調査)」の経年変化



指標項目はほぼ増加しており、「地域福祉活動」の満足度は平均値を上回っています。引き続き、市民のニーズに合った事業を実施していく必要があります。

## 施策2 市民協働のまちづくり

指標項目	基準値	R1実績値	R2実績値	R3見込値	R3見込値の最終目標値達成率	最終目標値(R4)
市民活動団体の登録数	69 団体 (H26)	79 団体 (R1)	75 団体 (R2)	77 団体 (R3)	25.8%	100 団体
自治会やまちづくり協議会、ボランティア活動などへの参加割合 (市民意識調査)	27.4% (H26)	30.9% (R1)	29.3% (R2)	26.6% (R3)	基準値以下	30.0%

### 【指標項目】

- 指標項目「市民活動団体の登録数」は、新型コロナウイルス感染症のために活動を見合わせている団体や、会員の高齢化や活動内容の変化により登録を取り下げる団体もある一方で、自分たちの住む社会を良くしていくことを目的に2つの特定非営利法人(NPO 法人)が認証されるなど、新たな取組を始める団体もあります。

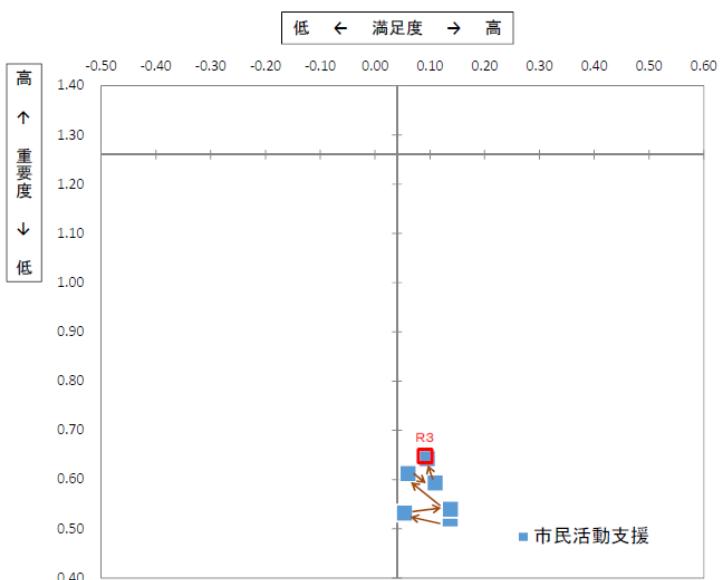
### 【市民満足度】

- まちづくりに対する満足度と重要度(右図)の「市民活動支援」の満足度は、平均値よりも高い数値で推移しています。

### 【実績等】

- 自発的かつ自主的にまちづくりに取り組む「イキイキまちづくり団体」に、その事業費の一部を助成しています。
- 地域コミュニティ醸成のため、まちづくり協議会に対して運営経費の財政支援と、情報提供や活動相談、情報発信などの支援を行っています。
- 外国人住民が増加しているため、外国人と地域住民が互いに理解を深めることを目的に、交流会を開催しています。

「まちづくりに対する満足度と重要度(市民意識調査)」の経年変化



指標項目はほぼ増加しており、「市民活動支援」の満足度は平均値を上回っています。引き続き、市民のニーズに合った事業を実施していく必要があります。

## 基本方針3 若者・女性の力を活かしたまちづくり

### 施策1 若者の活動の活発化

指標項目	基準値	R1実績値	R2実績値	R3見込値	R3見込値の最終目標値達成率	最終目標値(R4)
つばめ若者会議プロジェクト実行数(累計)	8 事業(H26)	74 事業(R1)	92 事業(R2)	110 事業(R3)	達成	80 事業

#### 【指標項目】

- 指標項目「つばめ若者会議プロジェクト実行数(累計)」は、高校生プロジェクト「燕市役所まちあそび部」の活性化により、地域団体や市内企業との協働型の取り組みも含めた事業数が増加しています。

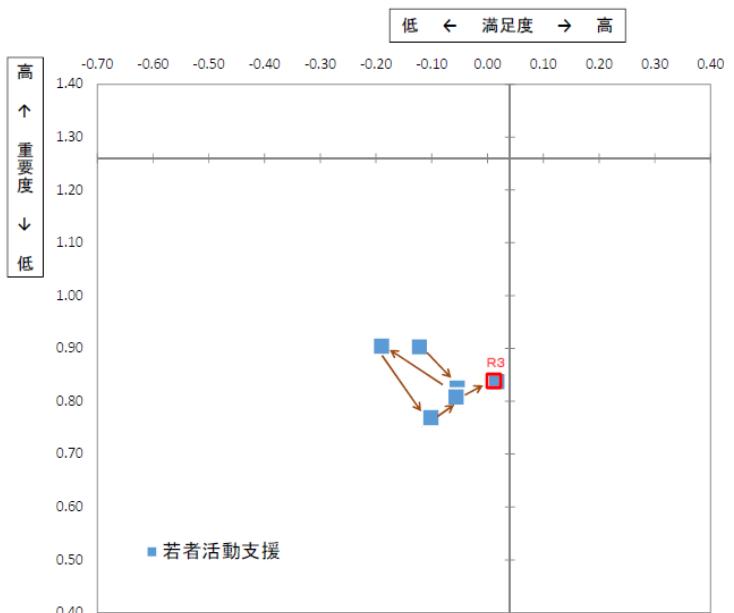
#### 【市民満足度】

- まちづくりに対する満足度と重要度(右図)の「若者活動支援」の満足度は、上昇傾向にあるものの平均値よりも低い数値となっています。

#### 【実績等】

- つばめ若者会議事業は、市政に対しての要望や事業提案を求めるなどといった政策提言型ではなく、自主性・主体性を重視しています。また、「まちづくり」の新たな視点として、若新雄純氏(株式会社 NEWYOUTH 代表取締役、慶應義塾大学特任准教授)プロデュースによる、まちのリソースを使った「まちあそび」を行い、高校生のゆるい雰囲気を尊重しながらも積極的に若者が地域活動に取り組み、地域との協働事業を数多く行っています。若者を対象とした自治体の事業として、他市にはない先進性と独自性のある取り組みです。
- 具体的な効果としては、大人や地域との連携を主軸としており、令和3年度は感染症対策を講じながら、12 月までにミーティングを 12 回、事業数は 7 事業を行い、令和3年度末までのプロジェクト数は累計で 110 事業になる見込みです。ほとんどの事業が地域の企業や農家、市民活動団体等と連携していることから協働による市民活動の活性化にも寄与しています。
- 首都圏をはじめとした県外に在住する 18 歳から 30 歳までの地元出身者のネットワークづくりとして、「つばめいと」を組織し、交流会や情報提供等を行っています。同様の事業は県内 20 市中、本市を含む6市ののみが実施しています。令和3年 12 月現在の会員数は 805 人です。
- 「羽ばたけつばくろ応援事業」では、子どもたちが主体的に取り組む自己啓発活動や社会貢献活動などに対し補助金を交付し、夢の実現を応援しています。

「まちづくりに対する満足度と重要度(市民意識調査)」の経年変化



指標項目は最終目標値を大きく越えている一方で、「若者活動支援」の満足度は上昇傾向にあるものの平均値を若干下回っています。引き続き、効果的な事業の実施に努め、成果をPRする必要があります。

## 施策2 女性が活躍しやすい環境づくり

指標項目	基準値	R1実績値	R2実績値	R3見込値	R3見込値の最終目標値達成率	最終目標値(R4)
ハッピー・パートナー企業の登録数	30 社(H27)	49 社(R1)	67 社(R2)	85 社(R3)	達成	66 社
各種審議会等における女性委員の割合	31.9% (H27)	33.8% (R1)	31.5% (R2)	31.7% (R3)	基準値以下	36.0%

### 【指標項目】

- 指標項目「ハッピー・パートナー企業の登録数」は、大幅に増加し、最終目標値を達成しました。平成27年度から令和2年度までに37社が新規登録し、登録数は県内20市中3位となっています。
- 指標項目「各種審議会等における女性委員の割合」の令和2年度実績値(31.5%)は、県内19市中5位となっています。

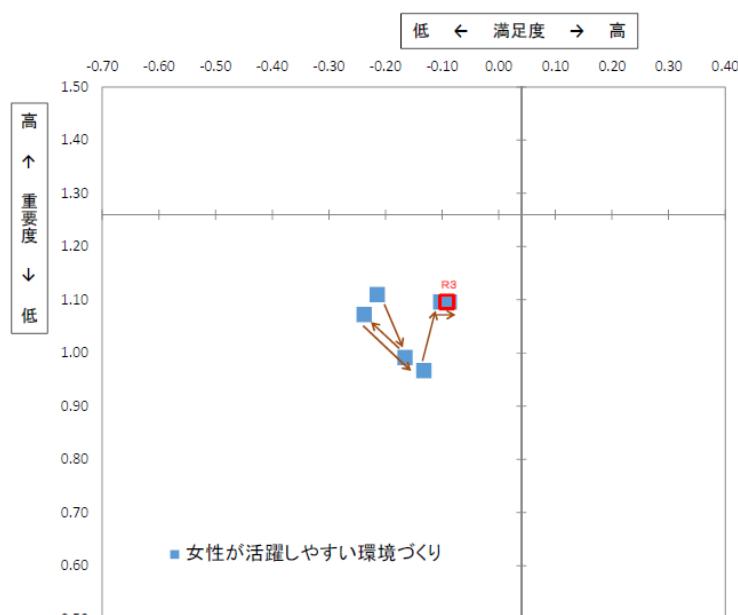
### 【市民満足度】

- まちづくりに対する満足度と重要度(右図)の「女性が活躍しやすい環境づくり」の満足度は、平均値よりも低い数値となっています。

### 【実績等】

- 燕市男女共同参画推進プランを策定し、性別にとらわれず多様な生き方ができる社会を目指して講座の開催や総合相談窓口を開設しています。
- 積極的に仕事と子育てが両立できるような職場環境づくりを進める企業を「つばめ子育て応援企業」に認定し、男性従業員が育児休業を取得した際に助成等を行っています。
- 女性を含む多様な人材が活躍できることを目的としたフォーラムの開催のほか、働きやすい職場環境づくりを目的とした就業規則や社内制度の改善及び研修に対する補助制度を創設しました。
- すべての女性が輝いて活躍しやすい環境づくりを進めるため、身近なモデルとなる女性個人や女性の活躍を応援する企業・団体を表彰する「つばめ輝く女性表彰」を平成28年度から実施し、これまでに9人、8企業・団体が受賞しています。

「まちづくりに対する満足度と重要度(市民意識調査)」の経年変化



各種事業を実施していますが、「女性が活躍しやすい環境づくり」の満足度は平均値を下回っています。女性のニーズに耳を傾け、女性を含む多様な人材誰もが活躍できる環境づくりを整えるための効果的な事業を実施していく必要があります。

### 戦略3 交流・応援(燕)人口増戦略

#### 基本方針1 観光の振興

##### 施策1 着地型観光の振興

指標項目	基準値	R1実績値	R2実績値	R3見込値	R3見込値の最終目標値達成率	最終目標値(R4)
観光客入込数	699,100 人(H26)	967,590 人(R1)	511,057 人(R2)	471,493 人(R3)	基準値以下	1,000,000 人
外国人観光客入込数 (燕三条地場産センター)	300 人(H26)	2,769 人(R1)	169 人(R2)	125 人(R3)	基準値以下	4,000 人

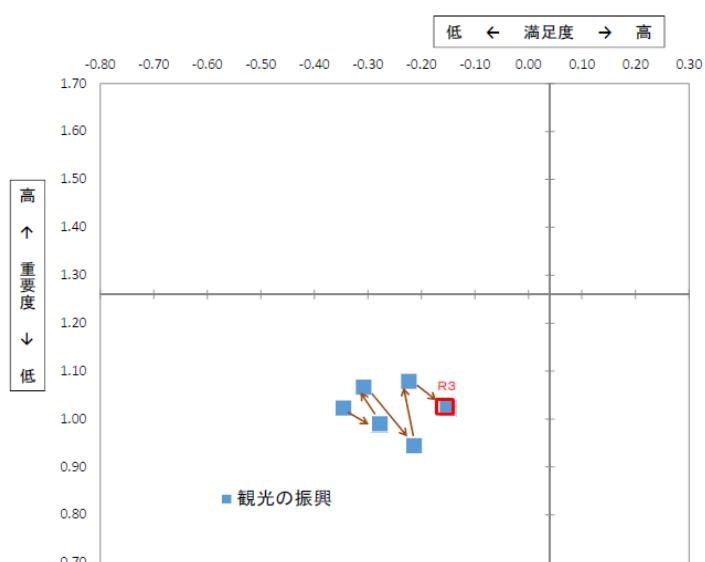
##### 【指標項目】

- 指標項目「観光客入込数」は、令和元年までは順調に増加し、967,590 人となりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により大きく減少しました。
- 指標項目「外国人観光客入込数(燕三条地場産センター)」について、令和元年度は 2,769 人まで増加しましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により大きく減少しました。

##### 【市民満足度】

- まちづくりに対する満足度と重要度(右図)の「観光の振興」の満足度は、増加傾向にありますが、平均値よりも低い数値となっています。

##### 「まちづくりに対する満足度と重要度(市民意識調査)」の経年変化



##### 【実績等】

- 産業観光の拠点である産業史料館をリノベーションし、映像などを活用した展示の再構成や体験工房館の設置などを行いました。
- 燕市観光協会に産業観光アドバイザーとしての専任スタッフを配置し、受け入れ体制の構築を推し進めてきました。また、工場見学などを受入れる企業に対して、産業観光受入体制整備事業補助金などの施策を行い、着地型観光を推進してきました。
- 本市の成り立ちや背景から、観光地としての認知度が未だ低い状況です。こうした弱点を補完し、対外的に観光先としての認知を訴求していくため、隣接している弥彦村と観光における広域連携協定を結び、プロモーションなどの連携事業を実施しています。
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、全国で修学旅行先の変更が相次いだ中、世界に誇る産業を通したキャリア学習やものづくりの体験の場として、本市が注目されました。令和2年度は県内外から 71 件、3,302 人が来燕しました。令和3年度は県内外から 174 件、8,144 人が来燕する見込みです。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により指標の実績値は減少しましたが、着実に成果は上がっています。「観光の振興」の満足度は平均値以下であるため、事業や成果の PR を強化する必要があります。

## 基本方針2 都市間交流の推進

### 施策1 都市交流・広域連携の推進

指標項目	基準値	R1実績値	R2実績値	R3見込値	R3見込値の最終目標値達成率	最終目標値(R4)
燕・弥彦地域定住自立圏連携事業数	5事業(H27)	9事業(R1)	10事業(R2)	11事業(R3)	達成	7事業
相互の地域住民が交流する都市数	3都市(H26)	5都市(R1)	5都市(R2)	5都市(R3)	66.7%	6都市

#### 【指標項目】

- 指標項目「燕・弥彦地域定住自立圏連携事業数」については、順調に事業を増やし、最終目標値を達成しています。弥彦村とは、生活圏や経済圏を共にしており、これまで培われてきた連携や協力関係を尊重しつつ、圏域全体の暮らしに必要な都市機能の整備や充実を図り、魅力ある地域づくりを推進しています。

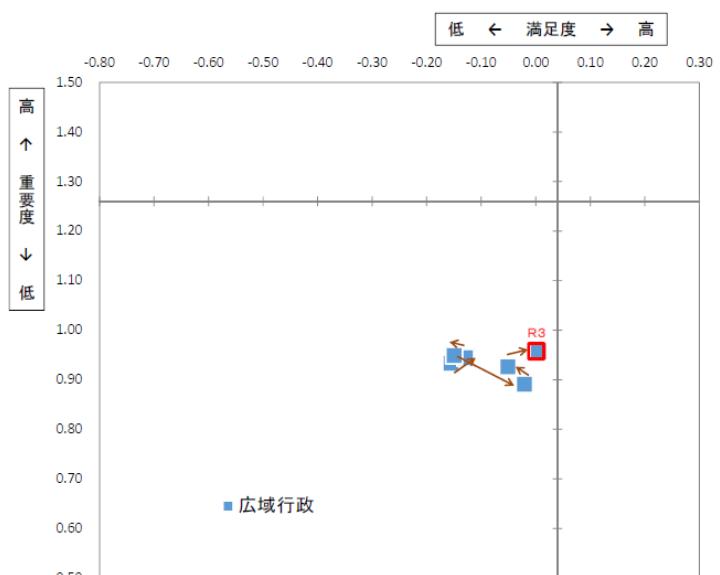
#### 【市民満足度】

- まちづくりに対する満足度と重要度(右図)の「広域行政」の満足度は、増加傾向にあります  
が、平均値よりも低い数値となっています。

#### 【実績等】

- 燕三条地場産業振興センターをプラットフォームに、三条市との産業連携を進めています。
- 東京ヤクルトスワローズを介して、愛媛県松山市、沖縄県浦添市、宮崎県西都市と、東京ヤクルトスワローズカップ少年野球交流大会を実施し、住民同士の交流を行っています。
- 山形県南陽市、福島県南相馬市とは、災害時相互援助・応援協定を締結しており、住民同士の交流も行われています。

「まちづくりに対する満足度と重要度(市民意識調査)」の経年変化



## 基本方針3 燕市のファンづくり

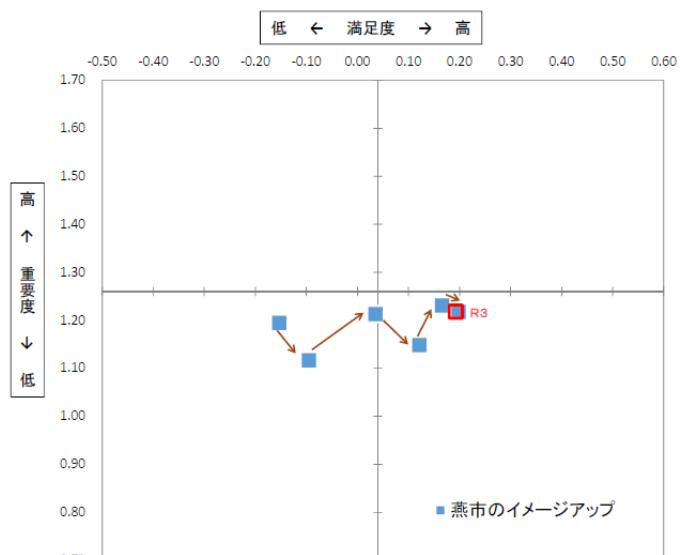
### 施策1 イメージアップ・ふるさと応援

指標項目	基準値	R1実績値	R2実績値	R3見込値	R3見込値の最終目標値達成率	最終目標値(R4)
ふるさと燕応援寄附金の寄附者数(年間)	6,012 人(H26)	131,299 人(R1)	158,192 人(R2)	137,000 人(R3)	達成	26,000 人
全国調査において本市を「魅力的」と答えた人の割合(ブランド総合研究所「地域ブランド調査」)	10.1%(H27)	14.1%(R1)	17.1%(R2)	23.6%(R3)	達成	13.5%

#### 【指標項目】

- 指標項目「ふるさと燕応援寄附金の寄附者数」については、全国の皆さんから応援いただき、最終目標値を達成しています。令和2年度実績では、寄附者数県内1位(158,192 人)、寄附金額も県内1位(49億 161万 6,550円)となっています。また、全国の順位は、寄附者数34位、寄附金額13位となりました。お礼の品として、たくさんの方に魅力的な地場産品を贈呈することで、燕市のPRに繋がっています。
- 『全国調査において本市を「魅力的」と答えた人の割合(ブランド総合研究所「地域ブランド調査」)』について、毎年増加傾向にあり、最終目標値を達成しています。また、同調査の「地場産業が盛んなまち」と答えた人の割合においては、平成28年は全国2位、30年は4位、令和2・3年は3位となりました。

#### 「まちづくりに対する満足度と重要度(市民意識調査)」の経年変化



#### 【市民満足度】

- まちづくりに対する満足度と重要度(右上図)の「燕市のイメージアップ」の満足度は、年々増加しており、高い数値となっています。

#### 【実績等】

- 東京ヤクルトスワローズと連携し、①神宮球場でのPRイベント、②ファン感謝デーでの出展による首都圏でのファンづくり、③田植え稲刈りイベントによる市外県外からの来燕機会の創出(=応援(燕)人口増加)を行っています。年間を通じたプロ球団との連携交流事業を実施しているのは県内では本市だけです。また、SMBC 日本シリーズ2021優勝により本市もメディアで取り上げられ、シティプロモーションにつながりました。
- 新型コロナウィルス感染症の影響により帰省を自粛する学生に対し、地元の食品などの応援物資を送ったことがSNSに投稿され、全国的に話題となりました。目的は応援でしたが、結果として本市のイメージアップにつながりました。
- 燕市PR大使の皆さんから、本市の魅力を全国に発信していただいている。
- ドラマ「下町ロケット」のロケ地を活用した情報発信を行いました。
- 動画やSNSなどを通じて、効果的・戦略的な情報発信を行っています。

指標の実績は順調であり、「燕市のイメージアップ」の満足度は平均値よりも高い数値となっています。引き続き、効果的な事業を実施していく必要があります。

## 戦略4 人口増戦略を支える都市環境の整備

### 基本方針1 安全・安心機能の向上

#### 施策1 災害に強いまちづくり

指標項目	基準値	R1実績値	R2実績値	R3見込値	R3見込値の最終目標値達成率	最終目標値(R4)
自主防災組織の組織率	70.8% (H27)	72.2% (R1)	75.0% (R2)	75.1% (R3)	30.3%	85.0%
総合防災訓練参加者数	2,561 人 (H27)	2,294 人 (R1)	—	2,299 人 (R3)	基準値以下	4,250 人
地区防災計画策定地区数(累計)	—	0 団体 (R1)	0 団体 (R2)	0 団体 (R3)	0.0%	8 団体
住宅用火災警報器の設置率	67.0% (H27)	82.4% (R1)	83.0% (R2)	85.0% (R3)	達成	80.0%

R2 年度の「総合防災訓練参加者数」は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止しました。

#### 【指標項目】

- 指標項目である燕市主催の「総合防災訓練参加者数」は、平成 27 年度と比較すると減少しているものの、自治会や自主防災組織が独自に実施する防災訓練は増加傾向にあり、それらを合計した「防災訓練参加者数」の令和元年度実績は 5,301 人となっています。

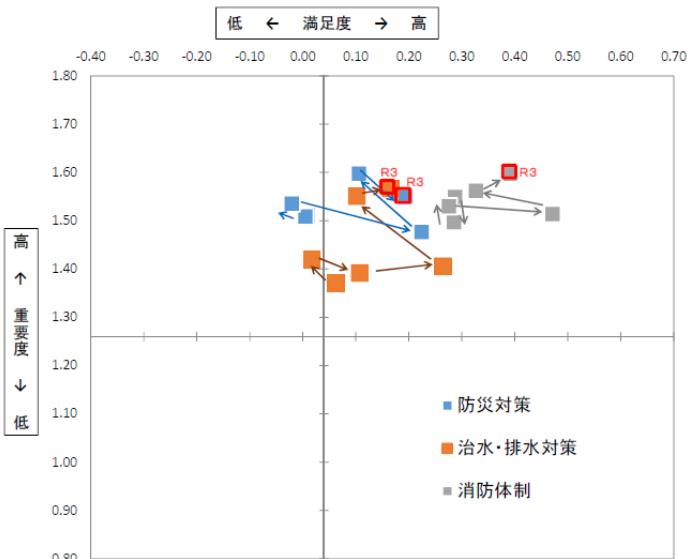
#### 【市民満足度】

- まちづくりに対する満足度と重要度(右図)の「防災対策」「治水・排水対策」「消防体制」の満足度は平均値よりも高く、消防体制は特に高い数値となっています。

#### 【実績等】

- 大規模な風水害に備えて、一人ひとりが事前に作成しておく「マイ・タイムライン(自分自身の避難行動計画)」を令和2年に全戸配布し、その後も、出前講座等の機会に作成の支援を行うなど、普及啓発に努めています。さらには、マイ・タイムラインの理解を促進し、家族でできる備えを実践・見直しを図るための防災チェックシートも全戸配布しました。
- 女性の視点を取り入れた災害対応や児童・生徒に対する防災教育の重要性が高まっていることから、平成 30 年度より、女性を対象とした防災リーダー養成講座を実施し、令和元年度より、「防災キャラバン」と称し、全小中学校を対象に防災講座を実施しています。また、防災リーダーのフォローアップを行う研修会や市民一人ひとりの防災意識の醸成を図るためのセミナーなども開催しています。
- 防災リーダー養成講座の受講者を対象に、さらなる防災知識の習得と技術力の向上、参加者同士の情報交換などにより、地域における防災活動の一層の活性化を図る目的で防災リーダー研修会を開催しました。

#### 「まちづくりに対する満足度と重要度(市民意識調査)」の経年変化



「防災対策」「治水・排水対策」「消防体制」の満足度は平均値よりも高く、指標の実績からも市民の防災意識が高まっていることが伺えます。引き続き、市民の防災意識を高める取組が必要です。

## 施策2 防犯・消費者保護対策の推進

指標項目	基準値	R1実績値	R2実績値	R3見込値	R3見込値の最終目標値達成率	最終目標値(R4)
防犯対策に対して満足と答えた人の割合(市民意識調査)	31.5% (H26)	38.1% (R1)	34.7% (R2)	37.2% (R3)	達成	35.0%
犯罪認知件数	448 件 (H27)	316 件 (R1)	273 件 (R2)	245 件 (R3)	達成	毎年減らす
県消費生活センターと燕市の消費者相談の合計件数に対する市への直接相談の割合	—	55.0% (R1)	55.9% (R2)	57.7% (R3)	達成	37.0%

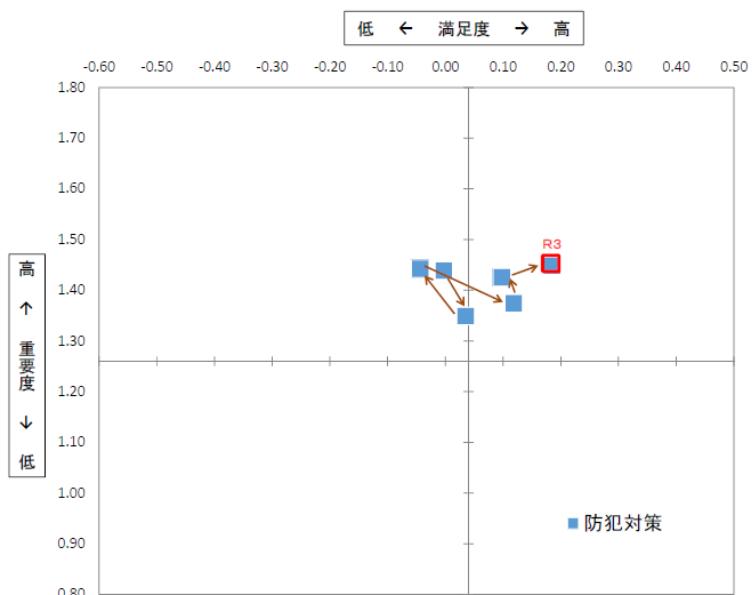
### 【指標項目・市民満足度】

- 指標項目「防犯対策に対して満足と答えた人の割合(市民意識調査)」は、右図「まちづくりに対する満足度と重要度(右図)」の「防犯対策」と同じ指標であり、満足度は増加傾向にあるとともに、平均よりも高い数値となっています。

### 【実績等】

- 市内の防犯団体や警察と連携し、防犯パトロールおよび啓発看板の設置等を行っているほか、市の防犯カメラ設置補助事業により防犯カメラの設置が進み、市民の防犯意識の高揚や犯罪抑止に繋がりました。
- 新小学1年生に、防犯グッズ(「いかのおすし」クリアファイル)を配付し、子どもの防犯意識の高揚に努めました。
- 防犯団体および警察と連携し、犯罪の発生状況等に係る冊子「燕市犯罪白書」を発行しました。
- 警察と連携し、詐欺被害の予兆電話がかかってくる等の情報を、市ホームページ、防災メール、Twitter(ツイッター)及びLINE(ライン)で速やかに市民に周知しています。

「まちづくりに対する満足度と重要度(市民意識調査)」の経年変化



各指標項目の実績は順調に推移しており、「防犯対策」の満足度は平均値よりも高い数値となっています。引き続き、市民の防犯意識の高揚や犯罪抑止に繋がる取組が必要です。

### 施策3 交通安全の推進

指標項目	基準値	R1実績値	R2実績値	R3見込値	R3見込値の最終目標値達成率	最終目標値(R4)
交通事故発生件数	207件 (H27)	154件 (R1)	121件 (R2)	119件 (R3)	達成	毎年減らす
高齢者交通事故発生件数	87件 (H27)	73件 (R1)	55件 (R2)	54件 (R3)	達成	毎年減らす
交通事故死者数	2人 (H27)	2人 (R1)	0人 (R2)	2人 (R3)	未達成	毎年減らす

#### 【指標項目】

- 指標項目「交通事故発生件数」「高齢者交通事故発生件数」は年々減少傾向にあるものの、県内他市との比較では、高い数値となっています。

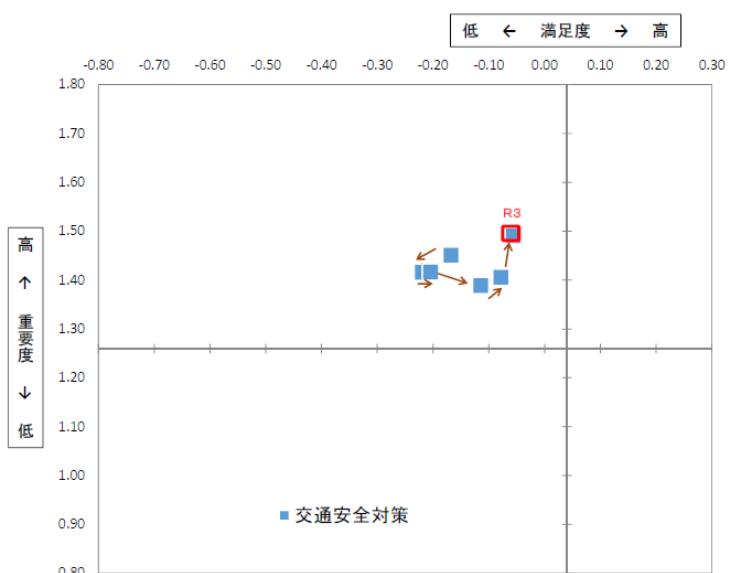
#### 【市民満足度】

- まちづくりに対する満足度と重要度(右図)の「交通安全対策」の満足度は平均値よりも低い数値となっています。

#### 【実績等】

- 交通安全協会や警察等と連携し、各季の交通安全運動において、立哨活動、パトロールおよびチラシ配布等を実施しました。
- 小・中学校において、交通安全教室を開催し、安全な自転車の乗り方や歩行の仕方等について啓発を行いました。
- 交通安全協会と連携し、交通安全ポスターコンクールを実施しました。小・中学生から応募のあった作品を交通安全啓発ポスターや広報紙等に掲載することにより、交通安全の啓発を図りました。また、新たに出展率の一番高い学校に、優秀学校賞を贈呈しました。
- 自動車学校と連携した「シルバードライビングスクール」、「体験型高齢者交通安全教室」及び「シルバーナイトスクール」等の体験型啓発活動を通じて、高齢者自身の交通安全意識の高揚を図るなどし、高齢者の事故防止に努めました。
- 各季の交通安全運動期間中において、高齢者宅を訪問し、反射材の着用や運転操作ミスに起因する事故防止を呼びかけました。

「まちづくりに対する満足度と重要度(市民意識調査)」の経年変化



各指標項目の実績は比較的順調に推移しているものの、「交通安全対策」の満足度は平均値よりも低い数値となっているため、対策を強化する必要があります。

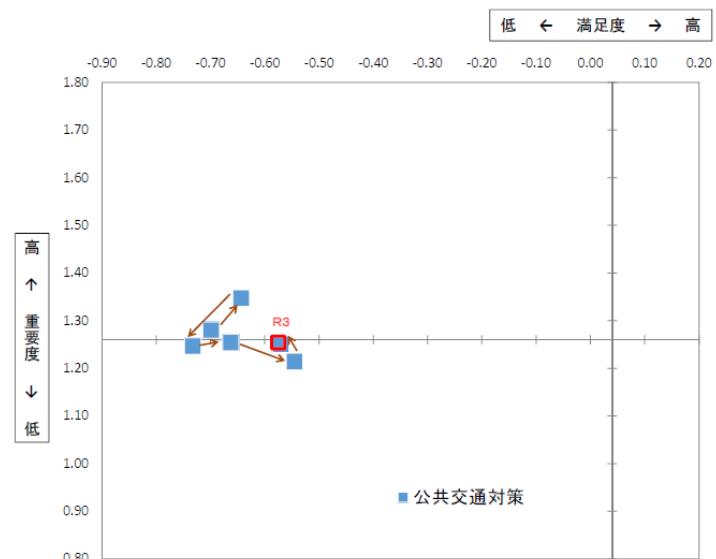
## 施策4 公共交通の整備

指標項目	基準値	R1実績値	R2実績値	R3見込値	R3見込値の最終目標値達成率	最終目標値(R4)
バスや鉄道などの公共交通の充実に対して不満と答えた人の割合(市民意識調査)	48.3% (H26)	56.6% (R1)	50.5% (R2)	52.3% (R3)	基準値以下	33.0%
市が運行するバス等の乗車人 数	70,164 人 (H26)	86,591 人 (R1)	71,173 人 (R2)	72,118 人 (R3)	7.6%	95,800 人

### 【指標項目・市民満足度】

- 指標項目「バスや鉄道などの公共交通の充実に対して不満と答えた人の割合(市民意識調査)」は、まちづくりに対する満足度と重要度(右図)と同一の指標ですが、満足度の数値は改善せず、平均値よりも非常に低い数値となっています。
- 市民意識調査で「公共交通」に不満と答えた人は、全年齢、全居住区で多い結果となりました。その中でも、40代が他の世代よりも不満と答えた割合が高く、居住区では分水小学校区が目立ちました。中高生の親世代が40代に多く、公共交通が充実していないために送迎をする必要があること、またJR越後線の吉田駅より上り(分水方面)の運行本数が少ないことが、不満の一因であると考えられます。
- 指標項目「市が運行するバス等の乗車人数」の「R2実績値」は、新型コロナウイルス感染症の影響で外出自体が減少したため、令和元年度の86,591人から大きく減少しました。

「まちづくりに対する満足度と重要度(市民意識調査)」の経年変化



### 【実績等】

- 公共交通の利便性や効率性、持続可能性を高めるため、令和元年3月に「燕・弥彦地域公共交通網形成計画」を策定し、計画に沿った取り組みを行っています。
- 燕地区、分水地区には民間路線バスが運行されており、市の事業として3地区を結ぶ燕市循環バス「スワロー号」、弥彦村と吉田地区を結ぶ弥彦・燕広域循環バス「やひこ号」のほか、予約制乗合ワゴン車「おでかけきららん号」を運行しています。
- 燕市循環バス「スワロー号」、弥彦・燕循環バス「やひこ号」の利用料金は一律100円となっており、民間路線バスと比べると料金体系が分かりやすく、長距離を移動できる公共交通です。
- 予約制乗合ワゴン車「おでかけきららん号」は他自治体と比較しても数少ない市内全域をカバーするドアツードア型のデマンド交通で、利用者が送迎地点を自由に設定できる利便性が高い公共交通です。
- 令和2年10月から令和4年3月まで、人口の集中度が高い燕地区において、コミュニティバスの新規路線の開設に向けた実証実験を行っています。

交通機関は充実しているものの、「公共交通対策」の満足度は特に低い数値となっているため、市民のニーズにあったダイヤ編成や事業を実施する必要があります。

## 施策5 快適な環境の確保

指標項目	基準値	R1実績値	R2実績値	R3見込値	R3見込値の最終目標値達成率	最終目標値(R4)
ゴミの総排出量	33,871 トン(H26)	32,078 トン(R1)	31,374 トン(R2)	32,497 トン(R3)	58.0%	31,500 トン
アルミ缶・スチール缶の回収量	—	3,060kg(R1)	2,500kg(R2)	2,270kg(R3)	94.5%	2,400kg
使用済小型家電の回収量	3,854kg(H26)	8,167kg(R1)	11,463kg(R2)	10,735 kg(R3)	達成	6,300kg
環境美化活動の参加人数	11,537 人(H26)	9,424 人(R1)	4,728 人(R2)	9,124 人(R3)	基準値以下	13,900 人

### 【指標項目】

- 指標項目「使用済み小型家電の回収量」は、既に最終目標値を達成しています。広報媒体や環境イベントによる普及啓発活動を行ったことなどにより、市民の意識・関心が高まり、行動変容に結び付いた結果であると考えています。
- 指標項目「環境美化活動の参加人数」の令和2年度実績値は、新型コロナウイルス感染症の影響でイベントの開催回数が減少したため、令和元年度の9,424人から大幅に減少しました。

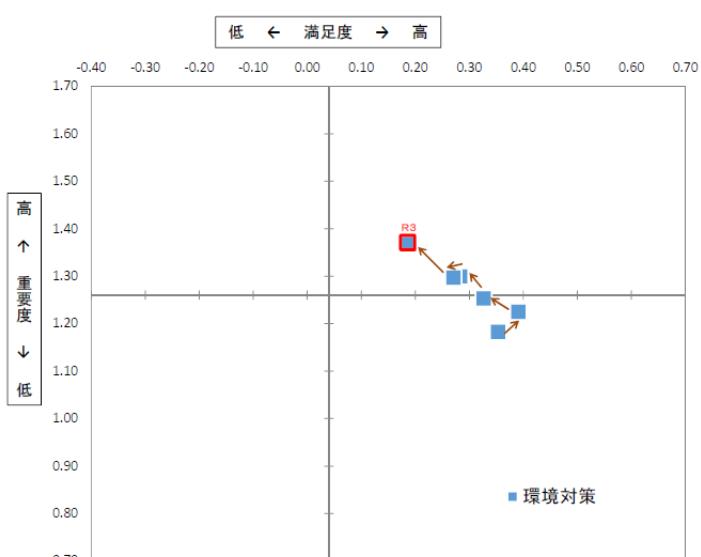
### 【市民満足度】

- まちづくりに対する満足度と重要度(右図)の「環境対策」の満足度は平均値よりも高いものの、4年連続で低下しています。市民意識調査の自由記述では、ごみ収集日の減少に関する意見が複数あり、このことが満足度減少の要因の1つである可能性があります。

### 【実績等】

- 指標項目「アルミ缶・スチール缶の回収量」の数値は、「カンカンBOOK事業」として、事業所等からアルミ缶・スチール缶を資源として寄付いただいたものの総量です。この売却益によって保育園やこども園等の絵本を購入しています。
- 指標項目「使用済小型家電の回収量」は、使用済小型家電製品を収集し、そこに含まれる有用金属(金・銀・銅など)の再資源化と不燃ごみの減量化を図るもので、収集・分解を市内の障害者福祉施設が担当することで、就労支援の一助としています。
- 再生可能エネルギーの利用拡大を図るため、一般廃棄物処理場跡地に誘致したメガソーラー発電所が稼働しています。また、市有施設等の屋根を発電事業者に有料で貸し出し、そこで発電事業をしてもらう「屋根貸し」を行っています。

「まちづくりに対する満足度と重要度(市民意識調査)」の経年変化



各指標項目の実績は順調に推移しています。「環境対策」の満足度は平均値よりも高い数値となっていますが、年々減少傾向にあるため、対策を強化する必要があります。

## 基本方針2 快適な都市機能の向上

### 施策1 まちなか居住と空き家等対策の推進

指標項目	基準値	R1実績値	R2実績値	R3見込値	R3見込値の最終目標値達成率	最終目標値(R4)
移住・定住人口数(年間)	152人 (H26)	271人 (R1)	296人 (R2)	268人 (R3)	78.4%	300人
特定空き家等の件数	86件 (H28)	68件 (R1)	68件 (R2)	55件 (R3)	達成	60件

#### 【指標項目】

- 指標項目「移住・定住人口数(年間)」は、増加傾向にあります。移住定住家族に対する住宅取得費用の補助事業において、補助基本額や各種加算額の見直しを行ったことが、増加の要因の1つであると考えられます。
- 指標項目「特定空き家等の件数」は、順調に減少しています。空き家バンク事業の解体撤去費助成などの活用により、解体件数の増加に繋がりました。令和3年度からは、空き家跡地活用促進事業を創設し、更なる空き家の解消と住環境の整備に努めています。

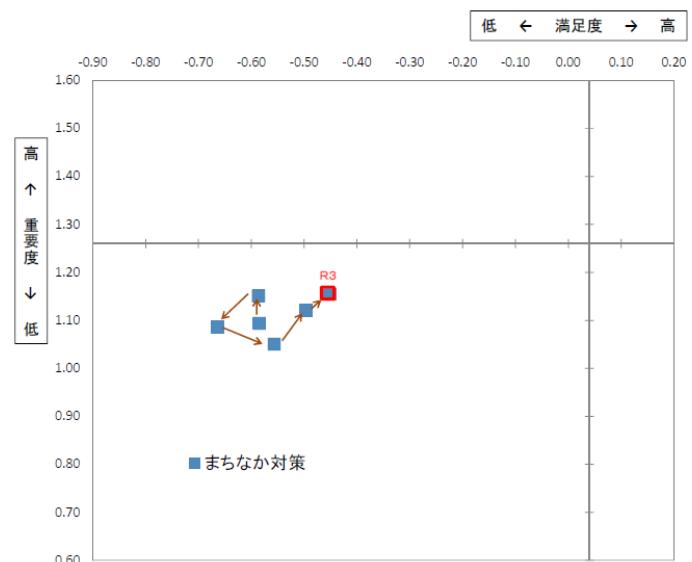
#### 【市民満足度】

- まちづくりに対する満足度と重要度(右図)の「まちなか対策」の満足度は増加傾向にありますが、平均値より低い数値となっています。特定空き家は減少しているものの、空き家の全数は増加傾向にあり、また、解体された跡地の活用が進まずに空き地のまま放置されることが不満の要因の1つであると考えられます。そのため、令和3年度から、複数の空き家と空き地を一体で活用する「中心市街地再生モデル事業(県内初)」「空き家跡地活用促進事業(県内初)」を実施しています。

#### 【実績等】

- 一般的な人生のエンディングノートを参考に、不動産の部分に特化した「住まいのエンディングノート」を令和3年度に県内で初めて作成し、事前の空き家防止に努めています。
- 空き家等対策連絡協議会(燕市、シルバー人材センター、燕市建設業協同組合、新潟県宅地建物取引業協会、新潟県司法書士会、燕市自治会協議会)を設立し、年2回開催している空き家総合相談会において、それぞれが役割を分担し、空き家所有者からの一連の相談(解体費用、各種補助金、解体跡地の売買等)に対応しています。

「まちづくりに対する満足度と重要度(市民意識調査)」の経年変化



各種事業の実施により、各指標項目の実績は順調に推移しているものの、「まちなか対策」の満足度は平均値よりも低い数値となっています。複数の空き家・空き地の一体活用による再編の推進に加え、各種事業や成果のPRを強化する必要があります。

## 施策2 親しみのある公園づくり

指標項目	基準値	R1実績値	R2実績値	R3見込値	R3見込値の最終目標値達成率	最終目標値(R4)
市民一人当たりの公園面積(都市公園、児童遊園、分水路高水敷)	5.64 m <sup>2</sup> /人 (H27)	5.81 m <sup>2</sup> /人 (R1)	5.88 m <sup>2</sup> /人 (R2)	5.90 m <sup>2</sup> /人 (R3)	8.3%	8.78 m <sup>2</sup> /人
管理を自治会、NPO、民間企業などに委託する都市公園、児童遊園数	114 個所 (H27)	116 個所 (R1)	116 個所 (R2)	116 個所 (R3)	20.0%	124 個所

### 【指標項目】

- 指標項目「市民一人当たりの公園面積(都市公園、児童遊園、分水路高水敷)」「管理を自治会、NPO、民間企業などに委託する都市公園、児童遊園数」とともに計画策定時からほとんど伸びていません。

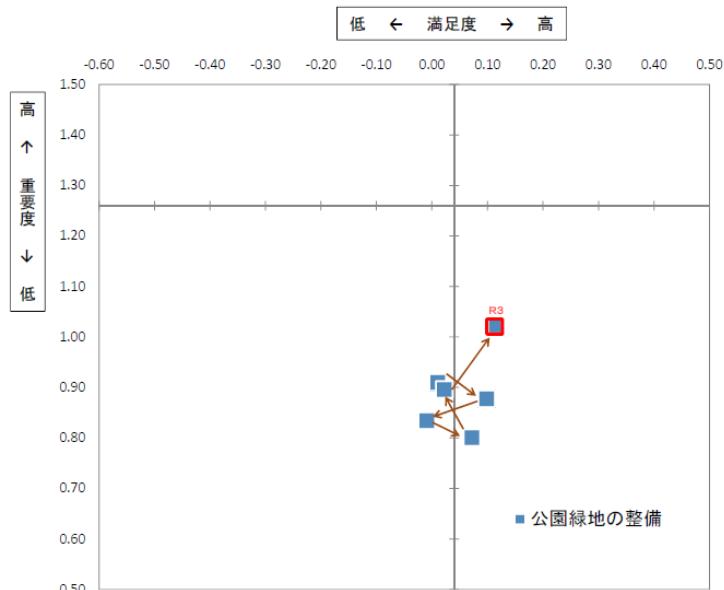
### 【市民満足度】

- まちづくりに対する満足度と重要度(右図)の「公園緑地の整備」の満足度は、令和3年度の満足度が上昇し、平均値よりも高くなりました。

### 【実績等】

- 面積が大きい「吉田ふれあい広場」「燕市交通公園」「国上健康の森公園」の3つの公園は、指定管理者制度を導入することで、民間事業者ならではの質の高いサービスを提供しています。
- 公園の遊具については、利用者が安全に利用できるよう1年毎に専門技術者による定期点検を実施しています。

### 「まちづくりに対する満足度と重要度(市民意識調査)」の経年変化



各指標項目の実績は停滞しているものの、「公園緑地の整備」の満足度は平均値よりも高い数値となっています。今後も市民のニーズに合った事業を実施していく必要があります。

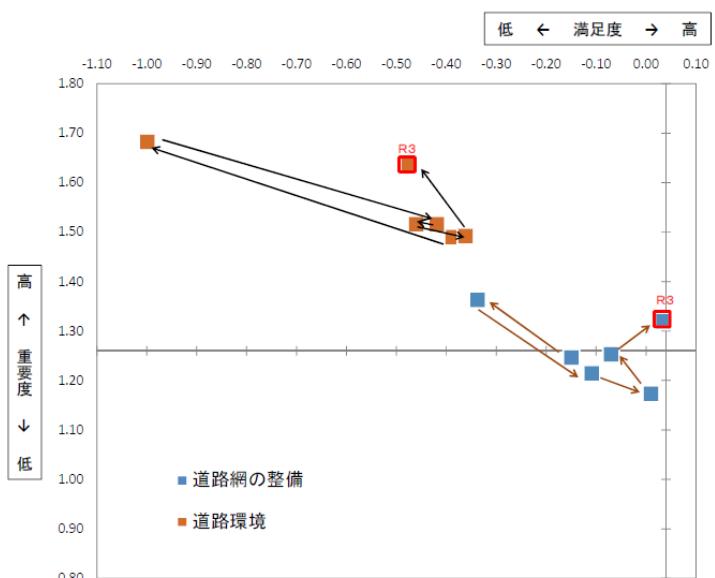
### 施策3 人にやさしい道路環境の整備

指標項目	基準値	R1実績値	R2実績値	R3見込値	R3見込値の最終目標値達成率	最終目標値(R4)
市道改良率	88.9% (H26)	89.3% (R1)	89.4% (R2)	89.4% (R3)	19.2%	91.5%
側溝改修率	1.8% (H27)	10.8% (R1)	13.3% (R2)	14.8% (R3)	45.6%	30.3%
側溝整備延長	1.2km (H27)	7.1km (R1)	8.8km (R2)	9.8 km (R3)	45.7%	20.0km
参考指標	橋梁修繕等措置が必要な施設割合 (直近5か年)	10% (直近5か年)	—	10% (直近5か年)	—	—

#### 【指標項目】

- 指標項目「市道改良率」は、計画策定時からほとんど伸びていませんが、令和元年度末の県内20市平均が66%である中で、本市の89.4%は全国的にも極めて高い数値であり、県内20市中1位となっています。
- 「市道の改良」および「側溝の改修」については、限られた予算の中で、地元自治会からの要望を調整しながら、効率的に改良(改修)を行っています。
- 参考指標「橋梁修繕等措置が必要な施設割合」は、市道道路管理者が管理する全ての橋を分母とし、橋梁点検において健全度レベルⅢ(早期措置段階)及びレベルⅣ(緊急措置段階)の判定を受けた橋梁の割合で、この数値が低いほど安全に通行できる橋が多いといえます。県内20市中4位となっており、修繕が必要な橋の割合は低い水準で推移しています。

#### 「まちづくりに対する満足度と重要度(市民意識調査)」の経年変化



#### 【市民満足度】

- まちづくりに対する満足度と重要度(右上図)の「道路網の整備」の満足度は、ほぼ平均値となっています。
- まちづくりに対する満足度と重要度(右上図)の「道路環境」の満足度は、平均値を大きく下回っています。この項目は、街灯設置、冬場の除雪、消雪等を対象としており、市民意識調査の自由記述では、豪雪時の除雪に対する不満が多いため、検討が必要です。

「道路網の整備」の満足度はほぼ平均値ですが、「道路環境」は平均値を大きく下回っています。豪雪時の除雪対策を検討する必要があります。

## 施策4 安全・安心・おいしい水道水の供給

指標項目	基準値	R1実績値	R2実績値	R3見込値	R3見込値の最終目標値達成率	最終目標値(R4)
配水管に占める石綿管比率	9.6% (H26)	3.9% (R1)	2.9% (R2)	1.9% (R3)	90.6%	1.1%
経常収支比率	119.2% (H26)	137.8% (R1)	142.6% (R2)	134.1% (R3)	達成	120.0%

### 【指標項目】

- 指標項目「配水管に占める石綿管比率」は、最終目標値に向かって順調に推移しています。
- 指標項目「経常収支比率」は、最終目標値を既に達成しました。計画最終年まで、この値を堅持すべく取り組んでいきます。令和2年度実績値は県内20市中1位であり、基準値である平成26年度からの増加率も1位となっています。
- 本市の「水道料金(標準モデル)」は、令和3年度で5,016円であり、県内20市中、安い方から8位となっています。

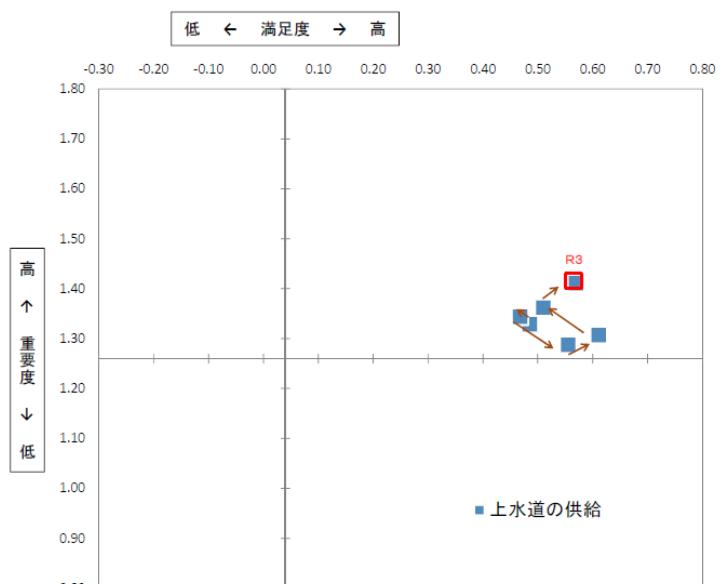
### 【指標項目】

- まちづくりに対する満足度と重要度(右図)の「上水道の供給」の満足度は、平均値を大きく上回り、非常に高い数値となっています。

### 【実績等】

- 燕市と弥彦村の4つの浄水場を統合した新たな浄水場を現在建設しています。令和7年度の供用開始予定です。
- この弥彦村との水道事業広域化に向けた取組が評価され、公益社団法人日本水道協会が実施する「2019年度水道イノベーション賞(特別賞)」を受賞しました。

「まちづくりに対する満足度と重要度(市民意識調査)」の経年変化



各指標項目は順調に推移しており、「上水道の供給」の満足度も非常に高い数値となっています。引き続き、安全・安心・おいしい水道水の供給に努める必要があります。

## 施策5 適正な汚水処理の推進

指標項目	基準値	R1実績値	R2実績値	R3見込値	R3見込値の最終目標値達成率	最終目標値(R4)
下水道処理人口普及率	45.8% (H26)	50.7% (R1)	51.6% (R2)	52.6% (R3)	88.3%	53.5%

### 【指標項目】

- 指標項目「下水道処理人口普及率」は、平成30年度に策定した「燕市汚水処理施設整備構想」によるアクションプランに基づき、令和10年度概成に向けて効率的な下水道整備を実施しており、最終目標値に向かって順調に推移しています。県内20市との増加量の比較では、6位となっています。

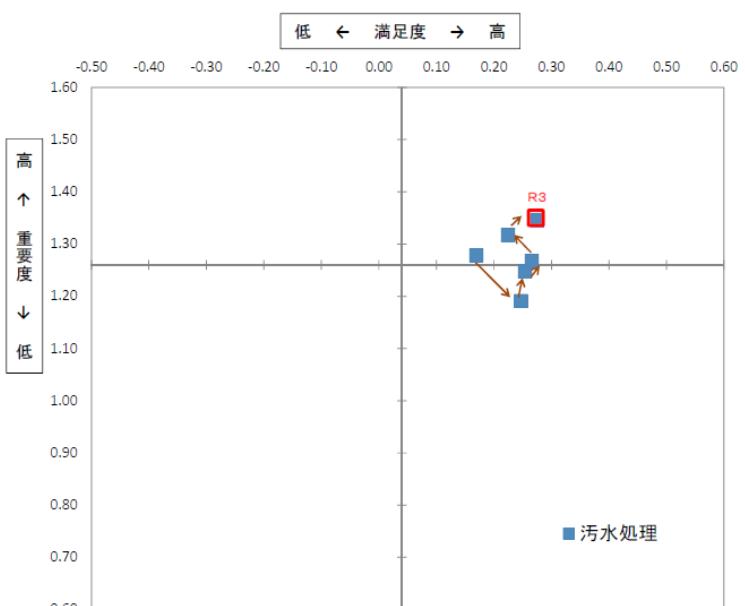
### 【市民満足度】

- まちづくりに対する満足度と重要度(右図)の「汚水処理」の満足度は、平均値を上回っています。

### 【実績等】

- 燕市汚水処理施設整備構想に基づく個別処理区域を対象に、単独処理浄化槽や汲み取り式トイレから合併処理浄化槽への転換のための補助制度を実施しています。

「まちづくりに対する満足度と重要度(市民意識調査)」の経年変化



各指標項目は順調に推移しており、「汚水処理」の満足度も平均値を上回っています。引き続き、適正な汚水処理の推進に努める必要があります。